

HAKODATE NURSING SCHOOL

Syllabus

2020 年度入学生 授業要綱



学校法人 野又学園
函館看護専門学校

教育課程表（目次）

基礎分野					専門分野Ⅱ				
科目	単位	時間数	ページ	科目	単位	時間数	ページ		
国語表現	1	15	1	成人看護学	7	195			
情報科学	1	30	2	成人看護学概論	1	15	49		
研究方法論	1	15	3	成人看護学援助論Ⅰ（A）	1	30	50、51		
社会学	1	30	4	成人看護学援助論Ⅰ（B）	1	30	52		
文学	1	30	5	成人看護学援助論Ⅱ	1	30	53		
心理学	1	30	6	成人看護学援助論Ⅲ	1	30	54		
文化人類学	1	30	7	成人看護学援助論Ⅳ	1	30	55		
法学	1	15	8	成人看護学援助論Ⅴ	1	30	56、57		
教育学	1	30	9	老年看護学	4	105			
人間関係論	1	30	10	老年看護学概論	1	30	58		
英語	1	30	11	老年看護学援助論Ⅰ	1	30	59		
家族論	1	15	12	老年看護学援助論Ⅱ	2	45	60、61		
スポーツ健康科学	1	30	13	小児看護学	4	105			
小計	13	330		小児看護学概論	1	30	62		
解剖生理学Ⅰ	1	30	14	小児看護学援助論Ⅰ	1	15	63		
解剖生理学Ⅱ	1	30	15	小児看護学援助論Ⅱ（A）	1	30	64		
解剖生理学Ⅲ	1	30	16	小児看護学援助論Ⅱ（B）	1	30	65、66		
解剖生理学Ⅳ	1	30	17	母性看護学	4	105			
解剖生理学Ⅴ	1	30	18	母性看護学概論	1	15	67		
生化学	1	15	19	母性看護学援助論Ⅰ	1	30	68		
疾病論Ⅰ	1	15	20	母性看護学援助論Ⅱ	2	60	69、70		
疾病論Ⅱ	1	30	21	精神看護学	4	105			
疾病論Ⅲ	2	60	22、23	精神看護学概論	1	30	71		
疾病論Ⅳ	1	30	24	精神保健	1	30	72		
疾病論Ⅴ	1	30	25	精神看護学援助論Ⅰ	1	30	73		
疾病論Ⅵ	1	30	26	精神看護学援助論Ⅱ	1	15	74		
治療論	1	30	27、28	臨地実習	16	720			
薬理学	1	30	29	成人看護実習Ⅰ	2	90	75		
保健医療論	1	15	30	成人看護実習Ⅱ	2	90	76		
公衆衛生学	2	30	31	成人看護実習Ⅲ	2	90	77		
社会福祉	1	15	32	老年看護実習Ⅰ	1	45	78		
関係法規	2	30	33	老年看護実習Ⅱ	3	135	79		
小計	21	510		小児看護実習	2	90	80		
基礎看護学	11	315		母性看護実習	2	90	81		
基礎看護学概論	1	30	34	精神看護実習Ⅰ	1	45	82		
基礎看護学技術Ⅰ（A）	1	30	35	精神看護実習Ⅱ	1	45	83		
基礎看護学技術Ⅰ（B）	1	15	36	在宅看護論	4	90			
基礎看護学技術Ⅱ	1	30	37	在宅看護概論	1	15	84		
基礎看護学技術Ⅲ	1	30	38	在宅看護援助論	2	60	85、86		
基礎看護学技術Ⅳ	1	30	39	在宅看護方法論	1	15	87		
基礎看護学技術Ⅴ	1	30	40、41	看護の統合と実践	4	120			
基礎看護学技術Ⅵ	1	30	42、43	災害看護	1	30	88		
基礎看護学技術Ⅶ	1	30	44	国際看護	1	30	89		
基礎看護学援助論Ⅰ	1	30	45	看護管理	1	30	90		
基礎看護学援助論Ⅱ	1	30	46	総合技術	1	30	91		
臨地実習	3	135		臨地実習	4	180			
基礎看護実習Ⅰ	1	45	47	在宅看護実習Ⅰ	1	45	92		
基礎看護実習Ⅱ	2	90	48	在宅看護実習Ⅱ	1	45	93		
				統合実習	2	90	94		
				合 計	99	3015			

2020年度入学生 担当講師一覧

分野	科目名	担当教員	実務経験	分野	科目名	担当教員	実務経験	
基礎分野	国語表現	内藤 一志		専門分野 II	成人看護学概論	太田 希子	○	
	情報科学	高橋 秀治			成人看護学援助論 I (A)	長 清美	○	
	研究方法論	非常勤講師			成人看護学援助論 I (A)	非常勤講師		
	社会学	本間 豊子	○		成人看護学援助論 I (B)	成人の看護過程の展開	吉田 妙恵子	○
	文学	内藤 一志			成人看護学援助論 II	呼吸器	非常勤講師・長崎 菜穂	○
	心理学	林 美都子			成人看護学援助論 II	循環器	笹田 麗	○
	文化人類学	村田 敦郎			成人看護学援助論 III	内分泌	北村 綾	○
	法学	永盛 恒男			成人看護学援助論 III	消化器	藤田 加奈	○
	教育学	藤井 良江			成人看護学援助論 IV	脳神経	非常勤講師	○
	人間関係論	岩田 明美	○		成人看護学援助論 IV	運動器	笹井 誠也	○
	英語	シマダ・レナーテ			成人看護学援助論 V	血液	蛭名 千昌	○
	家族論	非常勤講師			成人看護学援助論 V	腎泌尿器	非常勤講師	○
	スポーツ健康科学	原崎 千鶴子			成人看護学援助論 V	感覚器	非常勤講師	○
	専門基礎分野	解剖生理学 I	人体の構造と機能		上平 幸好	成人看護学援助論 V	外科的治療	森田 早苗
解剖生理学 I		人体の構造と機能	渡邊 豊	○	成人看護学援助論 V	患者/看護師関係	太田 希子	○
解剖生理学 II		呼吸・循環・体温	田村 堅吾	○	老年看護学概論		中井 幾子	○
解剖生理学 III		消化器・吸収	児嶋 哲文	○	老年看護学援助論 I		中井 幾子	○
解剖生理学 IV		ホメオスターシス	安齋 治一	○	老年看護学援助論 II		笹木 郁哉	○
解剖生理学 IV		ホメオスターシス	鈴木 勝雄	○	老年看護学援助論 II	事例	中井 幾子	○
解剖生理学 V		知覚・認識・運動	田村 堅吾	○	小児看護学概論		高橋 英恵	○
生化学			八幡 美保	○	小児看護学援助論 I		吉村 英敦・齋田 吉伯	○
疾病論 I		総論	榎木 賢三	○	小児看護学援助論 II (A)		舟口 信子	○
疾病論 II		微生物・感染症	小熊 恵二	○	小児看護学援助論 II (A)		高橋 英恵	○
疾病論 III		呼吸器	非常勤講師	○	小児看護学援助論 II (B)		藤原 信	○
疾病論 III		循環器	高橋 肇	○	小児看護学援助論 II (B)		山口 茂子	○
疾病論 III		血液・造血器	川村 詔導	○	小児看護学援助論 II (B)	事例	高橋 英恵	○
疾病論 IV		自己免疫疾患・内分泌・代謝系	安齋 治一	○	母性看護学概論		笠谷 優子	○
疾病論 IV		消化器	久保 公利	○	母性看護学援助論 I		四十澤 美行	○
疾病論 V		脳神経	非常勤講師	○	母性看護学援助論 I	女性生殖器系	小葉松 洋子	○
疾病論 V		運動器	非常勤講師	○	母性看護学援助論 II		四十澤 美行	○
疾病論 VI		腎泌尿器	田沼 康	○	母性看護学援助論 II	異常/母性医学	四十澤 美行	○
疾病論 VI		眼科	本間 哲	○	母性看護学援助論 II		篠村 順子	○
疾病論 VI		耳鼻科	佐藤 里奈	○	母性看護学援助論 II	事例	長 清美	○
疾病論 VI		歯科	秋本 祐基	○	精神看護学概論		土屋 佑太	○
治療論		外科的治療	亀山 敏	○	精神保健		成田 邦男	○
治療論		食事療法	木幡 恵子	○	精神看護学援助論 I		武藤 崇央	○
治療論		放射線治療	嶋田 匡	○	精神看護学援助論 I		花田 雅美	○
治療論		手術療法	亀山 敏	○	精神看護学援助論 II	事例・演習	小笠原 直美・非常勤講師	○
治療論		麻酔	榎木 賢三	○	成人看護学実習 I		太田 希子・吉田 妙恵子	○
治療論		救命救急	榎木 賢三	○	成人看護学実習 II		太田 希子・吉田 妙恵子	○
薬理学			横山 基樹	○	成人看護学実習 III		太田 希子・吉田 妙恵子	○
保健医療論			三浦 稔		老年看護学実習 I		中井 幾子	○
公衆衛生学			非常勤講師		老年看護学実習 II		中井 幾子	○
社会福祉			寺尾 賢一		小児看護学実習		高橋 英恵・長 清美	○
関係法規			澤田 信子	○	母性看護学実習		高橋 英恵・長 清美	○
関係法規			小林 美紗		精神看護学実習 I		小笠原 直美	○
専門分野 I		基礎看護学概論		深川 知恵子	○	精神看護学実習 II		小笠原 直美
	基礎看護学技術 I (A)	スクリーニング	長 清美	○	在宅看護概論		蛭名 千昌	○
	基礎看護学技術 I (B)	フィジカルアセスメント	長 清美	○	在宅看護援助論		保坂 明美	○
	基礎看護学技術 II	看護過程	太田 希子	○	在宅看護援助論		高畑 智子	○
	基礎看護学技術 III	安全・安楽	蛭名 千昌	○	在宅看護方法論		蛭名 千昌	○
	基礎看護学技術 III	コミュニケーション	吉田 妙恵子	○	災害看護		加藤 由美子・小宮 裕子・中村 洋美・常田 智子	○
	基礎看護学技術 IV	環境	笹木 郁哉	○	国際看護		大上 育子	○
	基礎看護学技術 V	清潔・衣生活	小笠原 直美	○	看護管理		深川 知恵子	○
	基礎看護学技術 VI	食事・排泄	小笠原 直美	○	総合技術		太田 希子・中井 幾子・笹木 郁哉	○
	基礎看護学技術 VI	活動・休息	高橋 英恵	○	在宅看護実習 I		蛭名 千昌	○
	基礎看護学技術 VI	危篤・死亡時	小笠原 直美	○	在宅看護実習 II		蛭名 千昌	○
	基礎看護学技術 VII	看護研究	小笠原 直美	○	統合実習		中井 幾子	○
	基礎看護学援助論 I	検査	蛭名 千昌	○				
	基礎看護学援助論 I	治療・処置	蛭名 千昌	○				
	基礎看護学援助論 II	症状別	吉田 妙恵子	○				
	基礎看護学実習 I		吉田 妙恵子	○				
	基礎看護学実習 II		蛭名 千昌・笹木 郁哉	○				

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		国語表現	内藤 一志	1	1(15)	前期
授業概要						
文章の書き方、及び表現方法の基本を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 短文化や主述の呼応を意識した平明な文章が書ける。 2. パラグラフライティングを意識した文章が書ける。 3. 事実—事実解釈—意見を明示した文章が書ける。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 オリエンテーション 短文化、主述の呼応</p> <p>第 2 回 項目化 パラグラフライティングの導入</p> <p>第 3 回 段落の作り方 作文訂正のカウンセリング</p> <p>第 4 回 誤文訂正演習 パラグラフライティング演習</p> <p>第 5 回 誤文訂正演習 ツールミンモデル（三角ロジック）</p> <p>第 6 回 既作成文章のツールミンモデル、パラグラフライティングによる書き直し演習 1</p> <p>第 7 回 既作成文章のツールミンモデル、パラグラフライティングによる書き直し演習 2</p> <p>第 8 回 6, 7 回の演習作品の評価に基づいた書き直し</p>						
評価方法						
1～5 回の授業ごとの演習（5 点、合計 25 点）、6, 7 回の演習（30 点、合計 60 点）、8 回の演習（15 点）						
使用教科書						
資料を授業時に配布						
参考書						
授業時に随時紹介						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		情報科学	高橋 秀治	1	1 (30)	後期
授業概要						
情報処理の基本的な考え方、情報処理システムの医療機関への応用、医療看護のデータの処理におけるコンピューターの利用から簡単な情報処理の方法を習得する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健統計並びに看護に関係ある資料を情報として活用するために、情報処理の基本的な考え方を知り医療機関への応用、看護データの処理におけるコンピューターの利用について学ぶ。 2. 統計処理方法を学ぶ。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回	前半：情報の定義と特徴・情報化社会 後半：P C 起動と基本操作・オンライン Office と OneDrive・表作成の基礎 1 と 2・サインアウトとシャットダウン					
第 2 回	前半：保健医療と情報・看護と情報 後半：表作成の基礎 3 と 4					
第 3 回	前半：医療における情報システム 後半：表作成の基礎 5 と 6					
第 4 回	前半：情報倫理と医療倫理・患者の権利と情報・個人情報の保護 後半：便利な予定表の作成①					
第 5 回	前半：コンピューターリテラシーとセキュリティ・既存の情報の収集方法 後半：便利な予定表の作成②					
第 6 回	前半：調査によるデータ収集方法 後半：便利な予定表の作成③					
第 7 回	前半：文字情報の整理 後半：便利な予定表の作成④					
第 8 回	前半：情報の発表とコミュニケーション 後半：P o w e r P o i n t によるプレゼンテーション					
第 9 回	Excel による統計解析 ①データの入力形式と表示方法 ②データの種類と単純集計					
第 10 回	Excel による統計解析 ③正規分布の特徴 ④統計的推定と 9 5 % 信頼区間 ⑤検定と分析					
第 11 回	Excel による統計解析 ⑥一般的な検定の流れと 2 種類の誤差 ⑦標本のデータ間の各種検定					
第 12 回	Excel による統計解析 ⑧Excel による各種平均値の検定 ⑨量的データと量的データの検定					
第 13 回	Excel による統計解析 ⑩Excel による散布図と回帰分析 ⑪多変量解析					
第 14 回	練習問題					
第 15 回	総まとめ（筆記試験と実技試験）					
評価方法						
筆記試験 50%、実技試験 50%						
使用教科書						
中山和弘他，系統看護学講座・別巻・看護情報学，第 2 版，医学書院，2020						
参考書						
必要時プリントを配布する。（教科書ポイント整理、P C 操作、他）						
その他						
PC（各自 1 台：Windows10+Office365、インターネット接続可）、プロジェクター（P C 画面の投影）、プリンター						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		研究方法論	非常勤講師	2	1(15)	前期
授業概要						
看護研究の意義・必要性和研究を実施するための一連のプロセスについて学習し、今後自ら看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程における問題意識を持ち、研究に意識を高く持てる。 2. 研究のテーマ設定から企画、文献の検索や資料収取方法ができる。 3. 文献や集めた資料を基に研究のデザインや方法に関して設定ができる。 4. アンケート作成や分析、インタビューガイドの作成や実施などの実践ができる。 5. アンケート結果やインタビュー内容から結果を文章として表現できる。 6. 研究に関する倫理的配慮を知っている。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 研究にあたっての問題意識の醸成とテーマ設定</p> <p>第 2 回 テーマ設定から研究企画書の作成 文献探索法</p> <p>第 3 回 研究のデザイン（研修方法や手順について）</p> <p>第 4 回 関連文献に対するアプローチ（探し方、まとめ方）</p> <p>第 5 回 調査のまとめ方（アンケート・インタビュー法）</p> <p>第 6 回 調査のまとめから発表の準備へ（パワーポイント資料の作成）</p> <p>第 7 回 研究発表とまとめ</p> <p>第 8 回 総評価</p>						
評価方法						
グループワーク 発表後評価						
使用教科書						
松本亨・森田夏実編集，新版・看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方，第2版，照林社，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		社会学	本間 豊子	1	1(30)	前期
授業概要						
<p>社会学的なものの見方、考え方を学ぶ。社会現象を表面的に知るのではなく、深く分析し、看護を実践するために看護と社会との関わりを理解する。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学的なものの見方、考え方をすることができる。 2. 社会現象を知るとともに分析し、看護と社会との関係が理解できる。 3. 社会における看護の課題と展望が理解できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 社会学とは 患者とのかかわるための看護における社会学の目的を知る 第 2 回 人間と社会 身体的・精神的・社会的に良好な状態とは 第 3 回 人間と社会 社会生活の中で子供を守るために私達ができること 第 4 回 人間と社会 社会の中で育つ人間、社会人として自分が行えること GW 第 5 回 家族 家族の変遷と家族の機能について、高齢化社会での在宅介護でできること GW 第 6 回 地域社会 現代の都市、農村社会の課題 第 7 回 職業と職場集団 職業の定義 労働の意義 第 8 回 職業と職場集団 医療集団の機能について 第 9 回 現代社会 近代・現代の特徴、現代社会の諸問題を看護に活かす 第 10 回 社会問題と調査・対応について 社会問題を生活問題ととらえる 第 11 回 看護社会学の領域と研究 看護ケア・看護システム・看護実践により看護に活かす 第 12 回 看護と社会学理論 看護ケアと行為とコミュニケーション 第 13 回 死の認識と終末期ケア 死のイメージ、現代の死生感について GW 第 14 回 専門職と職業倫理 医療を担う看護職としての倫理、責任について 第 15 回 現代社会における看護の課題 少子高齢化における医療技術の高度化と看護職の専門分化 総まとめ</p>						
評価方法						
<p>授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格</p>						
使用教科書						
<p>米林喜男他，新体系看護学全書 基礎科目 社会学，メヂカルフレンド社，2020</p>						
参考書						
<p>講義内で紹介する 必要時プリントを配布する</p>						
その他						
<p>特になし</p>						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
基礎分野		文学	内藤 一志	3	1 (30)	後期
授業概要						
物語性のある映画作品を分析、論評することを通して、情緒・感性を養うとともに、作品について論評した文章を書く。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 映画を対象に主要な分析観点に即して分析することができる。 2. 分析をもとに論評する平明な文章を書くことができる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回 物語の基礎構造 第 2 回 話型について 課題解決型とそのバリエーション 第 3 回 物語の設定について 第 4 回 分析観点 1 (人物の内面変容) について (視聴、演習、講義) 第 5 回 分析観点 1 (人物の内面変容) について (視聴、演習、講義) 第 6 回 分析観点 2 (変容を示す象徴的な行為) について (視聴、演習、講義) 第 7 回 分析観点 2 (変容を示す象徴的な行為) について (視聴、演習、講義) 第 8 回 分析観点 3 (間テキスト・作品) について (視聴、演習、講義) 第 9 回 分析観点 3 (間テキスト・作品) について (視聴、演習、講義) 第 10 回 分析観点 4 (設定) について (視聴、演習、講義) 第 11 回 分析観点 4 (設定) について (視聴、演習、講義) 第 12 回 トータルな作品論評 1 (視聴、論評に向けた議論) 第 13 回 トータルな作品論評 1 (視聴、論評に向けた議論) 第 14 回 トータルな作品論評 2 (視聴、論評に向けた議論) 第 15 回 トータルな作品論評 2 (視聴、論評に向けた議論)						
評価方法						
授業時に提出する課題 (1~11 回、計 6 回、各回 5 点、計 30 点)、作品論評レポート (2 回、各回 35 点、計 70 点)						
使用教科書						
適宜プリントして配布						
参考書						
授業時に示す						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		心理学	林 美都子	1	1 (30)	前期
授業概要						
人間の理解を深めるために、共通する心の動きや意識の働きについて学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の主要な専門用語について暗記し、必要に応じてその概念を説明することが出来る。 2. 心理学の主要な概念や基礎理論、知識等が、自らの日常生活におけるどのような体験を包含しているのか、具体例をあげながら説明することが出来る。 3. また2とは逆に、自らの日常生活における心理学的体験を、適切な心理学的専門用語を用いて説明できる。 4. 看護実習や日常生活などの実践の場において、みずからの活動の理由や根拠を、必要に応じて適切な心理学の知見に求めることが出来る。 						
授業計画・授業内容						
<p>第1回 心理学とは何か 心理学の歴史</p> <p>第2回 感覚・知覚</p> <p>第3回 記憶の基本メカニズム</p> <p>第4回 記憶2 忘却</p> <p>第5回 思考・推論</p> <p>第6回 言語</p> <p>第7回 知能 IQ 知的障害</p> <p>第8回 学習① ・学習の基本 ・古典的条件づけ</p> <p>第9回 学習② ・オペラント条件づけ ・社会的学習</p> <p>第10回 感情</p> <p>第11回 性格</p> <p>第12回 発達</p> <p>第13回 カウンセリング</p> <p>第14回 対人援助職</p> <p>第15回 総まとめ</p> <p>※理解状況に応じて、進捗状況を調整することがある。</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
山村豊他, 基礎分野・心理学, 第6版, 医学書院, 2020						
参考書						
特になし						
その他						
<ul style="list-style-type: none"> ・ミニテストの実施 毎回、授業の終わりにその回の復習としてミニテストを実施するので、よく復習すること。 なお、ミニテストは宿題になることもある。 ・実験、調査、演習の実施 座学のみでは分かりにくいこともあるため、必要に応じて授業内で実験や調査、演習などを実施することがある。指示に従って積極的に参加し、必要に応じて疑問点を質問して、理解を深めるための一助となされたい。 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		文化人類学	村田 敦郎	1	1(30)	後期
授業概要						
地域の文化を通し異文化社会の固有の体系を相対的に理解し、人間の価値観の多様性や人類の普遍性について理解を深める。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化人類学とはどのような学問かを学び、人間の価値観の多様性や普遍性について理解することができる。 2. 文化人類学における質的研究、エスノグラフィーについて学ぶことができる。 3. 個人・家族・国家それぞれの概念について、異文化社会や現代社会による考え方について学ぶことができる。 4. さまざまな儀礼について学ぶことができる。 5. 文化人類学における宗教について学ぶことができる。 6. 文化人類学における健康・病気・医療について学ぶことができる。 7. 人間の死についての異文化における概念や対応を学ぶことができる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回 授業の進め方についてイントロダクション、「文化」とは何か 第 2 回 「文化相対主義」とは何か、文化相対主義の思想的貢献と陥穽 第 3 回 人間の発見 「人種」とは何か 第 4 回 人間の発見 2 「民族」と「文化」 第 5 回 家族とは誰のことか 親子関係の人類学 第 6 回 家族とは誰のことか 2 夫婦同姓・別姓の文化 第 7 回 信仰と癒し 第 8 回 呪術と不幸／病 第 9 回 占いはなぜあたるのか 第 10 回 私を看取る文化 - タイの宗教ホスピスを事例に 第 11 回 死の儀礼論 第 12 回 死んだらどうなるのか - バリ人の魂の行方 第 13 回 死んだらどうなるのか - 日本人の魂の行方 第 14 回 日本人の他界観 『千と千尋の神隠し』を読み解く 第 15 回 死生観の人類学 命とはなにか ブラジルのヤノマミ事例から						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
適宜レジュメを配布する。						
参考書						
波平恵美子他, 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学, 第 3 版, 医学書院, 2020						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		法学	永盛 恒男	1	1(15)	前期
授業概要						
我が国において保健医療は法制度に基づいて実施されているので、法ないし法律について正確に認識し、かつ理解できる基礎力を養うことを目的とする。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 法律学における各基礎概念を正確に理解できる。 2. 裁判制度・手続きについて理解できる。 3. 社会における紛争解決方法を理解できる。 4. 衛生法規のうちとくに保助看法について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 ガイダンス 法とは何かの基礎的説明</p> <p>第 2 回 基本六法の説明 法則と規範の違い</p> <p>第 3 回 法と道徳の異同</p> <p>第 4 回 保助看法 医療法 法と強制</p> <p>第 5 回 法の基礎 正義とは</p> <p>第 6 回 社会における法の役割 法の解釈と適用について</p> <p>第 7 回 紛争解決と法 裁判制度</p> <p>第 8 回 総まとめ</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
特になし 必要時プリントを用意する						
参考書						
特になし 必要時その都度指示する						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> ①法学は社会を離れては存在し得ないので、社会の動きを知るためには少なくとも毎日、新聞を読んでおいて欲しい ②授業は常に疑問を持って受講して欲しい 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		教育学	藤井 良江	3	1 (30)	通年
授業概要						
人間と教育の本質について学び看護活動へ活用できる能力を養う。また生涯学習について意欲と関心を高める。						
到達目標						
1. 望ましい人間形成における教育の意義・方法を理解する。 2. 生涯学習の必要性がわかり患者支援など、看護活動に活かす知識を学ぶことができる。						
授業計画・授業内容						
第 1 回	第 1 部	教育学を学ぶために	第 1 章	社会の中の看護と教育		
第 2 回	第 2 章	教育とはなにか—「教育」の概念				
第 3 回	第 3 章	教育の対象—子ども観と発達				
第 4 回	第 4 章	社会変動と教育				
第 5 回	第 5 章	教育の組織化—学校				
第 6 回	第 2 部	教育をなりたせるもの	第 1 章	教授—人を教えるということ		
第 7 回	第 2 章	訓育—他者とのかかわりを導く	第 3 章	養護—教育の受け手を見まもる		
第 8 回	第 4 章	発達—教育を受けて成長する				
第 9 回	第 3 部	教育の営みを考える	第 1 章	学びの場—学校と家庭		
第 10 回	第 2 章	教育の目標と評価	第 3 章	教育のメディア—教育をデザインする		
第 11 回	第 4 章	教育の担い手—専門性と専門職性	第 5 章	教育の場を作るしくみ		
第 12 回	第 4 部	現代教育の新たな課題	第 1 章	キャリア教育（専門教育）		
第 13 回	第 2 章	ジェンダーとセクシュアリティ	第 3 章	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育		
第 14 回	第 4 章	生涯教育	第 5 章	シティズンシップ教育		
第 15 回		総まとめ				
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
木村元他，系統看護学講座 基礎分野 教育学 第 7 版，医学書院，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		人間関係論	岩田 明美	3	1 (30)	通年
授業概要						
自己と他者との関わりの中で自己を見つめること、他者を思いやることの重要性について学び、看護者としての人間関係を築くための基礎を養う。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己と他者との関わりの中で自己を見つめることができる。 2. 他者を思いやることの重要性について理解できる。 3. 看護者としての人間関係を築くための基礎について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回	第 1 部	人間関係基礎論	第 1 章	人間関係の中の自己と他者		
第 2 回	第 2 章	対人関係と役割				
第 3 回	第 3 章	態度と対人行動				
第 4 回	第 4 章	集団と個人				
第 5 回	第 2 部	人間関係をつくる理論と技法	第 5 章	コミュニケーション		
第 6 回	第 6 章	カウンセリングと心理療法				
第 7 回	第 7 章	コーチング				
第 8 回	第 8 章	アサーティブ - コミュニケーション				
第 9 回	第 3 部	保健医療における人間関係	第 9 章	保健医療チームの人間関係		
第 10 回	第 9 章	保健医療チームの人間関係				
第 11 回	第 10 章	患者を支える人間関係				
第 12 回	第 11 章	家族を含めた人間関係				
第 13 回	第 12 章	地域をつくる人間関係				
第 14 回		事例				
第 15 回		総まとめ				
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
石川ひろの他、系統看護学講座 基礎分野 人間関係論、第 3 版、2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		英語	シマダ・レナーテ	1	1（30）	前期
授業概要						
<p>Give the students some exercise handouts and have them arrange these samples into different situations. Give the students handouts with short A/B scrambled conversation pattern and let them find the pairs. Introduce new vocabulary and have the students memorize.</p> <p>様々な状況に対応している看護場面の資料を配布し演習を行う。また、新しい単語を学習し活用する場面として学生同士でペアを見つけさせ、A/Bの会話のパターンで演習を行う。</p>						
到達目標						
<p>The students improve their listening and speaking skills in English, so they can conduct a simple conversation with their patients in their professional life.</p> <p>1. 英語を聞いたり話したりする能力が向上する。 2. 看護師として患者と接する際に用いる簡単な会話を行うことができる。</p>						
授業計画・授業内容						
<p>第1回 オリエンテーション 自己紹介 ネームプレート作成 英語クエスチョンマーク&アンサー 第2回 英語は英語らしく話すように、教室の中でよく使う言葉 第3回 前回のレビュー 挨拶・自己紹介のパターン 第4回 自己紹介 面接のパターンのペア練習 体の部分をグループでクイズ形式で考える 第5回 会話のパターン練習 第6回 体の部位の単語表現 第7回 体の部分「あちこち痛いです」英語で言いましょう。他の原因も考えてみましょう 第8回 体の部分「あちこち痛いです」英語で言いましょう。他の原因も考えてみましょう パート2 第9回 頻度を表す副詞 第10回 体の内臓の部位「あらどうしましたか?」「ここが痛いです」。医師との診察時のミニ会話 第11回 医師との診察時のミニ会話のレビュー。体の内臓の部位と症状 第12回 病院の受付・問診の会話。時計の読み方・体温計の読み方 第13回 患者さんとの会話。アレルギーの内服。他の薬も飲んでいますか? (いつから? どのくらいの期間?) 第14回 テストについて。受付にて大きな病気、大きな怪我 第15回 いろいろな保険の話。総まとめ</p>						
評価方法						
リスニング（20%）筆記試験（80%）にて評価 100%とし、60点以上で合格						
使用教科書						
特になし						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		家族論	非常勤講師	1	1（15）	前期
授業概要						
現代社会における家族の役割と意義、及び家族問題について理解し、家族支援の具体的実践から、対人援助職における人権アプローチについて検討する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 「家族とは何か」「家族と家庭の違い」について説明できる。 現代社会において、なぜ、家族支援が必要なのかを説明できる。 現代の家族と人間関係の問題点について説明できる。 家族とストレス、格差／貧困問題について、その問題の実際を具体的に説明できる。 「人間が人間らしく生きる」とはどのようなことかを理解し、それが実現可能なものとなるにはどのような条件が必要かについて具体的に論述できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 家族とは何か（家族の第 1 定義・第 2 定義）</p> <p>第 2 回 家族支援の必要性～共助を重視する子育て支援実践を事例として</p> <p>第 3 回 現代の家族と人間関係</p> <p>第 4 回 地域社会の変容と家族</p> <p>第 5 回 家族とストレス～事例から学ぶ</p> <p>第 6 回 格差／貧困問題と家族</p> <p>第 7 回 人権アプローチとしてのヌスバウムの潜在能力論～コミュニティハウス冬月荘の取り組みを事例として</p> <p>第 8 回 総まとめ</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 60%、毎授業の「学習のまとめシート」20%、授業への積極性 20% ただし、筆記試験は 60 点以上で合格。60 点未満は、再試験を課す						
使用教科書						
特になし						
参考書						
特になし						
その他						
看護師を目指す看護科の学生の皆さんにとって、「患者さまのご家族」と、どのような関わりを持てばよいのかを学ぶことは重要です。この授業では、人間が、「尊厳のある人間」として尊重されるためには、どんな条件が必要なのかについて考えます。例えば、重い病気を患っている患者さんにとって、家族とはどのような存在ででしょうか。また患者さんが、生まれだての赤ちゃんの場合、病気に関する説明は、ご家族の方にされることとなります。さらに、自分自身の家族が、病気や怪我の状態にあるということも想定しながら、学びを深めていければと考えています						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野		スポーツ健康科学	原崎 千鶴子	3	1 (30)	通年
授業概要						
健康と運動の意義を理解し健康生活を維持するための運動の効用について学ぶ。また体力を増強し、集団行動における主体性と協調性を養う。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と運動の意義についてスポーツを通して理解できる。 2. 健康生活を維持するための運動の効用について理解できる。 3. 体力を増強し、集団行動における主体性と協調性を養うことができる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回	からだほぐしと簡単ストレッチング&筋名と骨と関節を自分の身体をさわって覚えよう					
第 2 回	健康・体力づくりのための体力測定（有酸素性テスト 筋持久力テスト 柔軟性テスト）					
第 3 回	大胸筋の 3 方向の動きと肩甲骨の 6 つの動きを知り不良姿勢の改善と予防法を学ぶ					
第 4 回	股関節と脊柱を連動させ正しい姿勢でのスクワット&フォワードランジにチャレンジ					
第 5 回	音楽に合わせて運動不足解消ローインパクト&心肺機能向上のロー&ハイインパクトエアロ					
第 6 回	いかり肩、なで肩の改善体操で肩こり解消&心肺機能向上のロー&ハイインパクトエアロ					
第 7 回	腰痛改善メソッドを学ぶ&心肺機能向上のロー&ハイインパクトエアロ					
第 8 回	椅子を使つての体幹トレーニング&心肺機能向上のロー&ハイインパクトエアロ					
第 9 回	大胸筋の動きと肩甲骨の動きの復習&心肺機能向上のロー&ハイインパクトエアロ					
第 10 回	スクワット&フォワードランジの復習&心肺機能向上のロー&ハイインパクトエアロ					
第 11 回	振りつけ曲に合わせて動きを学習&チューブトレーニング					
第 12 回	チームでコリオグラフィーにチャレンジ（面とリズムチェンジ）&チューブトレーニング					
第 13 回	チームでコリオグラフィー（アームスとフォーメーション）&チューブトレーニング					
第 14 回	チームで 規定と課題ルーティンの練習&チューブトレーニング					
第 15 回	実技総まとめ					
評価方法						
実技試験 80% 学習意欲 20%						
使用教科書						
特になし						
参考書						
特になし						
その他						
必要時プリントを配布する						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野		解剖生理学 I (人体の構造と機能)	上平幸好・渡邊豊	1	1 (30)	前期
授業概要						
身体の構造を学ぶ。各器官系統の持つ働きの意味を学ぶ。						
到達目標						
1. 人体とはどのようなものか、人体を構成する細胞と組織について理解を深め、さらに種を保存する機構を学ぶ。 2. 人体の構造と機能を、器官と器官系を中心に学習する。						
授業計画・授業内容						
全 15 回 (30H) の授業は、第 1～7 回、第 15 回は上平幸好が担当、第 8～14 回は渡邊豊が担当する。						
第 1 回	はじめに、生命を維持する植物機能と生命を活用する動物機能、体を保護し種を保存する機能について説明し、また解剖学と生理学の歴史ならびに現在について簡潔に解説					
第 2 回	階層性という視点より人体を説明し、基本構造である細胞の微細構造と機能を詳しく説明					
第 3 回	細胞を構成する化学物質と生命活動の源となるエネルギーの生成について説明					
第 4 回	核酸によるタンパク質の合成を説明し、さらに細胞膜の構造と機能を詳しく説明					
第 5 回	細胞の増殖を染色体と関連させて説明し、細胞群が形成する 4 つの基本組織を理解させる					
第 6 回	発生学的な知見より生殖細胞の形成過程を紹介、また、受精の機構と初期発生を解説					
第 7 回	胚子から胎児への成長、胎盤形成とその役割、ならびに生殖器の分化を説明 (ビデオ参照)					
第 8 回	体表から触知する人体の構造					
第 9 回	体表から触知する人体の構造					
第 10 回	体表から触知する人体の構造					
第 11 回	人体の構造と区分					
第 12 回	人体の部位と器官、方位と位置を示す用語					
第 13 回	動物機能と植物機能の器官系					
第 14 回	体液とホメオスタシス					
第 15 回	総まとめ 筆記試験の実施					
評価方法						
授業の終了後の筆記試験による評価 100%とする。60 点以上で合格。再試験の受験機会は一度とし、再試による合格者は「可」の成績評価とする。本校が「特別な事情がある」と認定した学生には、追試験を行う						
使用教科書						
坂井建雄他, 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 第 10 版, 医学書院, 2020						
参考書						
坂井建雄・河原克雅編, カラー図解 人体の正常構造と機能, 第 3 版, 日本医事新報社, 2017 鯉淵典之・栗原敏監訳, リッピンコット シリーズ イラストレイテッド生理学, 丸善出版, 2014 野上康雄著, Q シリーズ 新組織学, 第 6 版, 日本医事新報社, 2016						
その他						
NHK ビデオ, 「NHK スペシャル 驚異の小宇宙 第一巻 人体 生命誕生」 授業で配布したプリントを参照し理解を深める努力が必要である						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		解剖生理学Ⅱ (呼吸・循環・体温)	田村 堅吾	1	1 (30)	前期
授業概要						
生命現象の基本としての認識の上に、呼吸・循環の働きについて両者を関連付けて学ぶ。また体温調整について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸は生命の維持にどのような意義をもつのか理解できる。 2. 肺・縦隔のしくみと働きについて理解できる。 3. 異常呼吸の呼吸パターンが理解できる。 4. 血液の組成・分類と働きについて理解できる。 5. 心臓の働きについて理解できる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回 血液の組成と機能、赤血球、白血球 第 2 回 血小板、血液の凝固、血液型 第 3 回 呼吸は生命の維持にどのような意義を持つのか知るため、呼吸器の構造について説明する 第 4 回 内呼吸と外呼吸、肺・縦隔の機能 第 5 回 呼吸運動の調節 第 6 回 異常呼吸の呼吸パターン 第 7 回 ガス交換とガスの運搬肺の循環と血流 第 8 回 循環器について 第 9 回 心臓の拍出機能 第 10 回 心臓・血管 第 11 回 血液（動脈・静脈） 第 12 回 血圧について 第 13 回 血液量・血圧について 第 14 回 血液循環について 第 15 回 総まとめ						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
坂井建雄他，専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①，第 10 版，医学書院，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		解剖生理学Ⅲ （消化・吸収）	児嶋 哲文	1	1（30）	前期
授業概要						
消化・吸収のしくみについて学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化管を図示し、各部の名称を口腔から順に述べることができる。 2. 消化管の各部の構造と機能が理解できる。 3. 糖質・たんぱく質・脂質の消化と吸収について理解できる。 4. 排便の調節機序について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回 消化器 解剖生理の総論 第 2 回 咽頭 食道 第 3 回 胃、小腸、大腸の解剖 第 4 回 解剖 VIDEO 腹部 糖質・蛋白質の分解 第 5 回 胃の VIDEO 脂質の消化吸収 第 6 回 胆道、肝の解剖 第 7 回 肝、胆道の解剖 第 8 回 小テストと説明（消化管） 第 9 回 練習問題と腹膜の解剖 第 10 回 栄養の消化と吸収、練習問題 第 11 回 消化器解剖・嚥下状態、演習問題 第 12 回 消化器解剖・肝臓の働き、演習問題 解答・解説 第 13 回 消化・吸収について、演習問題と解答・説明 第 14 回 栄養の消化と吸収・排便のメカニズム、演習問題と解答 第 15 回 総まとめ						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
坂井建雄著，専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学，第 10 版，医学書院，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		解剖生理学IV (ホメオスターシス)	安齋治一・鈴木勝雄	1	1 (30)	後期
授業概要						
内部環境、外部環境の変化に伴う調節機能について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の構造が理解できる。 2. 器官・組織・細胞との関係が理解できる。 3. 機能からみた人体が理解できる。 4. 内部環境について理解できる。 5. 内部環境とホメオスターシスの関係について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
全 15 回 (30H) の授業は、第 1～7 回は鈴木勝雄が担当、第 8～15 回は安齋治一が担当する。						
第 1 回 腎臓の構造と機能、糸球体・尿細管の構造と機能 第 2 回 傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過量 第 3 回 腎臓から分泌される生理活性物質 第 4 回 排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿 第 5 回 体液の調節 水の出納、脱水 第 6 回 体液の調節 電解質の異常、酸塩基平衡 第 7 回 まとめ 第 8 回 自律神経の機能・構造 第 9 回 内分泌による調節、内分泌とホルモン、ホルモンの化学構造と作用機序 第 10 回 様々な全身の内分泌腺と内分泌細胞① 第 11 回 様々な全身の内分泌腺と内分泌細胞② 第 12 回 ホルモン分泌の調整と実際の働き① 第 13 回 ホルモン分泌の調整と実際の働き② 第 14 回 代謝とは、運動とエネルギー 第 15 回 体温調節、熱産生・熱放散、体温の分布と測定、体温調節、まとめ						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
坂井建雄他, 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 第 10 版, 医学書院, 2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野		解剖生理学V (知覚・認識・運動)	田村 堅吾	1	1 (30)	前期
授業概要						
外界刺激を受容するしくみ、各刺激に応じた反応のしくみ、筋肉運動のしくみについて学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経の構造と機能が理解できる。 2. 脊髄・脳と脊髄神経・脳神経の構造と機能が理解できる。 3. 脳の高次機能について理解できる。 4. 感覚機能について理解できる。 5. 人体の骨格と筋について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回 骨格とはどのようなものか 第 2 回 骨の連結 骨格筋 第 3 回 体幹の骨格と筋 第 4 回 上肢の骨格と筋 第 5 回 下肢の骨格と筋 第 6 回 頭頸部の骨格と筋 筋の収縮 第 7 回 神経系の構造と機能 第 8 回 脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 脳の高次機能 第 9 回 運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路 第 10 回 眼の構造と視覚 第 11 回 耳の構造と聴覚・平衡覚 第 12 回 味覚と嗅覚 第 13 回 痛み (疼痛) 第 14 回 これまでの復習 第 15 回 総まとめ						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
坂井建雄他, 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 第 10 版, 医学書院, 2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		生化学	八幡 美保	1	1（15）	前期
授業概要						
<p>人体の生命現象を科学的側面からとらえ、生物の物質代謝を理解するとともに、看護に応用する能力を身につける。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造について説明できる。 2. 糖質・脂質・タンパク質・核酸の構造と性質について説明できる。 3. 酵素の役割と性質について説明できる。 4. 糖質・脂質・タンパク質・核酸の代謝について説明できる。 5. 遺伝情報とは何か、また遺伝情報の発現の仕組みについて説明できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 人体の成り立ち、細胞の構造、生体分子の構造と特徴、生体をつくる元素 第 2 回 単糖・二糖・多糖の構造と性質、脂肪酸・中性脂肪・リン脂質・糖脂質・コレステロールの構造と性質 第 3 回 リポタンパク質の構造と役割、アミノ酸・タンパク質の構造と性質、核酸の構造と性質 第 4 回 酵素の役割と性質、酵素反応の調節、栄養素の代謝の概要、栄養素とエネルギーの関係性 第 5 回 糖質の代謝 第 6 回 脂質の代謝、アミノ酸・タンパク質の代謝 第 7 回 遺伝情報とは、複製・転写・翻訳、DNA の損傷と修復、核酸の代謝 第 8 回 総まとめ</p>						
評価方法						
<p>授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格</p>						
使用教科書						
<p>畠山 鎮次著、系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学, 第 14 版, 医学書院, 2020</p>						
参考書						
<p>授業中に指示する</p>						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業外に行うべき学習 授業を受ける前に、教科書の該当部分をあらかじめ読んでおくこと 授業後は、教科書を読み直す、ノートを整理する、配布した練習問題を繰り返し解く、などの復習を行うこと 2. PC、電子黒板使用 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		疾病論 I (総論)	檜木 賢三	1	1 (15)	前期
授業概要						
疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気の概念について理解できる。 2. 循環障害について理解できる。 3. 免疫・炎症について理解できる。 4. 先天異常と遺伝子異常について理解できる。 5. 悪性腫瘍の特徴について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回 病理学と看護・病気の原因、細胞組織の障害と修復 第 2 回 循環器系の基礎 血栓・塞栓 第 3 回 免疫・炎症について 第 4 回 免疫の機序 T細胞 B細胞 アレルギー 自己免疫疾患 第 5 回 先天異常 細胞染色体 DNA 減数分裂 受精 ダウン症 第 6 回 遺伝子病 癌細胞 第 7 回 癌の特徴について 門脈 門脈圧亢進症 第 8 回 総まとめ						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
大橋 健一, 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 第 5 版, 医学書院, 2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		疾病論Ⅱ (微生物・感染症)	小熊 恵二	1	1 (30)	後期
授業概要						
微生物の人体におよぼす影響、および、病原微生物の感染対策について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトに感染する微生物の種類、その感染様式と特徴的な症状などを述べる事が出来る。 2. 感染症に対する一般的な予防・診断と治療・看護の方法を述べる事が出来る。 3. 上記 1,2 をふまえ、重要な微生物による個々の感染に対し、その対策や問題点を述べる事が出来る。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 微生物（学）の歴史と特徴（真核生物と原核生物の違い）、細菌の形態・分類、</p> <p>第 2 回 代謝と増殖法、染色法、細菌の変異と遺伝、遺伝形質の導入</p> <p>第 3 回 感染と発症（細菌の病原因子と宿主側防御因子、感染症の種類、診断法）</p> <p>第 4 回 細菌学各論（ブドウ球菌、レンサ球菌、腸内細菌科、ビブリオ科など）</p> <p>第 5 回 細菌学各論（カンピロバクター、ヘリコバクター、緑膿菌、レジオネラ、有芽胞菌など）</p> <p>第 6 回 細菌学各論（百日咳菌、ジフテリア菌、抗酸菌、放線菌など）</p> <p>第 7 回 細菌学各論（スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアなど）</p> <p>第 8 回 感染と免疫（液性免疫、体液性免疫、アレルギー、ワクチンなど）</p> <p>第 9 回 ウイルス学総論</p> <p>第 10 回 ウイルス学各論（ヘルペス、インフルエンザ、麻疹ウイルスなど）</p> <p>第 11 回 ウイルス学各論（日本脳炎、SARS、エボラ、ポリオ、ノロウイルスなど）</p> <p>第 12 回 ウイルス学各論（肝炎、エイズなど）とプリオン病</p> <p>第 13 回 滅菌と消毒、院内感染対策、</p> <p>第 14 回 真菌学総論・各論</p> <p>第 15 回 感染症の問題点と感染症法（薬剤耐性菌、人獣共通感染症、輸入感染症、STDなど）</p> <p>※ 講義の進捗状況に応じて調整することがある。</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
小熊恵二ら著、コンパクト微生物学（改訂第 4 版）、南江堂、2020						
参考書						
小熊恵二ら著、シンプル微生物学（改訂第 6 版）、南江堂、2018						
その他						
スライドで、微生物の形態や典型的な症状などを示す						

分野	No.	科目名	担当教員		単位（時間数）	時期
専門基礎分野		疾病論Ⅲ (呼吸・循環・血液・造血器系)	オムニバス形式	2	2 (60)	通年

授業概要

呼吸器系、循環器系、血液・造血器系の疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。

到達目標

1. 代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる
2. 疾患を診断する主な検査について理解できる
3. 主な治療について理解できる

授業計画・授業内容

全 30 回 (60H) の授業は第 1～7 回 (呼吸器) は非常勤講師が担当、第 8～14 回は川村詔導 (血液・造血器) が担当、第 15 回に呼吸器と血液・造血器のまとめを行う。第 16～29 回は高橋肇 (循環器) が担当し、第 30 回にまとめを行う。

(呼吸器) 非常勤講師

- 第 1 回 呼吸器の構造と機能
- 第 2 回 疾患総論
- 第 3 回 感染症 (結核を含む)
- 第 4 回 アレルギー総論
- 第 5 回 肺癌
- 第 6 回 気道疾患
- 第 7 回 呼吸器のまとめ

(血液・造血器) 川村 詔導

- 第 8 回 血球の産生、鉄欠乏性貧血
- 第 9 回 貧血 巨赤芽性貧血 急性白血病
- 第 10 回 急性白血病 慢性白血病 悪性リンパ腫
- 第 11 回 成人 T 細胞白血病 リンパ腫 白血病の治療
- 第 12 回 HLA 幹細胞移植 血液型
- 第 13 回 DIC ITP 凝固 線溶
- 第 14 回 鉄欠乏性貧血 巨赤芽球性貧血 化学療法 DIC 血液型 幹細胞移植

(呼吸器・血液)

- 第 15 回 総まとめ

(循環器) 高橋 肇

- 第 16 回 循環器の構造と機能
- 第 17 回 高血圧 自律神経
- 第 18 回 虚血性心疾患について
- 第 19 回 不整脈①
- 第 20 回 不整脈②
- 第 21 回 心不全について
- 第 22 回 弁膜症 心筋疾患等
- 第 23 回 症状とその病理生理
- 第 24 回 バイタルについて
- 第 25 回 老年の特徴を知る
- 第 26 回 動脈系・静脈系・リンパ系疾患
- 第 27 回 疾患をもつ患者の看護
- 第 28 回 疾患をもつ患者の看護
- 第 29 回 これまでの復習
- 第 30 回 総まとめ

評価方法

(呼吸器)

授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格

(循環器)

授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格

(血液・造血器)

授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格

使用教科書

(呼吸器)

浅野 浩一郎著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 第 15 版, 医学書院, 2020

(循環器)

松田 直樹著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 第 15 版, 医学書院, 2020

(血液・造血器)

飯野京子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 第 15 版, 医学書院, 2020

参考書

特になし

その他

特になし

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		疾病論Ⅳ (自己免疫疾患・内分泌・代謝系・消化器系)	安齋治一・久保公利	2	1 (30)	通年
授業概要						
自己免疫疾患、内分泌・代謝系、消化器系の疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる。 2. 疾患を診断する主な検査について理解できる。 3. 主な治療について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
全 15 回 (30H) の授業は、第 1～7 回は安齋治一が担当、第 8～14 回は久保公利が担当し、第 15 回は総まとめとする。						
(内分泌)						
第 1 回 糖尿病 生活習慣病 チーム医療						
第 2 回 脂質・尿酸の代謝・生理・病理						
第 3 回 SLE 免疫・アレルギー・RA						
第 4 回 内分泌の総論						
第 5 回 下垂体腺腫 ACTH 産生腫瘍など バセドウ病 甲状腺機能低下症 他						
第 6 回 甲状腺疾患 副腎 副甲状腺						
第 7 回 内分泌の救急疾患						
(消化器)						
第 8 回 導入 (消化器疾患に関する医療の動向)、上部消化管疾患の診断・検査・症状・治療 (食道疾患等)						
第 9 回 上部消化管疾患の診断・検査・症状・治療 (胃疾患等)						
第 10 回 上部消化管疾患の診断・検査・症状・治療 (復習)						
第 11 回 下部消化管疾患の診断・検査・症状・治療 (炎症性疾患等)						
第 12 回 下部消化管疾患の診断・検査・症状・治療 (イレウス等)						
第 13 回 下部消化管疾患の診断・検査・症状・治療 (腫瘍等)						
第 14 回 肝臓・胆のう・膵臓疾患等の診断・検査・治療						
(内分泌・消化器)						
第 15 回 総まとめ						
評価方法						
(内分泌) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
(消化器) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
(内分泌) 黒江ゆり子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝, 第 15 版, 医学書院, 2020						
岩田健太郎著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症, 第 15 版, 医学書院, 2020						
(消化器) 南川 雅子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器, 第 15 版, 医学書院, 2020						
参考書						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		疾病論V (脳神経・運動器)	非常勤講師	2	1 (30)	通年
授業概要						
脳神経系、運動器系に疾患をもつ患者の身体セサメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経系・運動器系の代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる。 2. 疾患を診断する主な検査について理解できる。 3. 主な治療について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
全 15 回 (30H) の授業は、第 1～7 回 (脳神経) は非常勤講師が担当、第 8～14 回 (運動器) は非常勤講師が担当、第 15 回は総まとめとする。						
(脳神経)						
第 1 回 神経解剖 脳機能局在						
第 2 回 意識とは 失語症 他						
第 3 回 神経診察 診断機器 基本手術						
第 4 回 疾患各論 脳動脈瘤 くも膜下出血の病理・管理						
第 5 回 大型・巨大動脈瘤 脳梗塞 急性期血行再建						
第 6 回 脳虚血の外科 頸部外傷 脳腫瘍						
第 7 回 脊髄疾患 神経内科疾患 抹消神経障害						
(運動器系)						
第 8 回 整形外科の歴史、総論						
第 9 回 整形外科の歴史、総論						
第 10 回 外傷の基礎知識 対応について						
第 11 回 変形性関節症等 慢性疾患について						
第 12 回 末梢神経障害について						
第 13 回 脊椎疾患について講義						
第 14 回 講義のまとめ (総合的な復習)						
(脳神経・運動器系)						
第 15 回 総まとめ						
評価方法						
(脳神経) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
(運動器系) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
(脳神経) 井手隆文著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7], 脳・神経, 第 15 版, 医学書院, 2020						
(運動器系) 田中 栄著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10], 運動器, 第 15 版, 医学書院, 2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		疾病論Ⅵ (腎泌尿器・感覚器)	オムニバス形式	2	1 (30)	通年
授業概要						
腎泌尿器系、感覚器系に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 腎泌尿器の疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法が理解できる。 感覚器系の疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法が理解できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>授業は、第1～6回（腎泌尿器）は田沼康、第7～9回（眼科）は本間哲、第10～12回（歯科）は秋本祐基、第13～15回（耳鼻科）は佐藤里奈が担当する。</p> <p>(腎・泌尿器)</p> <p>第1回 腎泌尿器解剖生理 排尿症状 第2回 慢性腎不全 泌尿器疾患の徴候 第3回 泌尿器科の検査・治療 血液・腹膜透析 腎移植① 第4回 泌尿器科の検査・治療 血液・腹膜透析 腎移植② 第5回 看護国家試験でよく出る疾患のポイント・実際の試験を解いてみよう・国家試験の解説 第6回 総まとめ</p> <p>(眼科)</p> <p>第7回 眼の解剖生理 第8回 緑内障の話 第9回 糖尿病性網膜症の理解、他</p> <p>(歯科)</p> <p>第10回 病院歯科の役割 顎口腔領域の炎症性疾患 口腔ケア 第11回 顎変形症 口腔癌 第12回 顎骨骨折 顎関節症 脱臼 顎骨の濾胞</p> <p>(耳鼻科)</p> <p>第13回 耳・鼻・咽頭・喉頭の解剖生理、耳分野の学習 第14回 第3章と第5章の耳疾患 第15回 第5章 鼻・咽頭・喉頭・唾液腺疾患</p>						
評価方法						
(腎・泌尿器) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
(腎・泌尿器) 今井 亜矢子, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器, 第15版, 医学書院, 2020 (眼科) 大鹿哲郎著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼, 第14版, 医学書院, 2018 (歯科) 渋谷絹子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔, 第14版, 医学書院, 2020 (耳鼻科) 小松浩子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉, 第14版, 医学書院, 2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門基礎分野		治療論 (外科的治療・食事療法・放射線治療・手術療法・麻酔・救命救急)	オムニバス形式	2	1(30)	通年

授業概要

疾病の回復を促進する各治療の原理を学ぶ。

到達目標

(外科的治療)

1. 外科的治療の特徴について学ぶことができる。
2. 消化器系・呼吸器系・内分泌系・女性生殖器系の代表的疾患の外科的治療について学ぶことができる。

(食事療法)

1. 食事療法の意義について説明できる。
2. 治療食の種類と分類について説明できる。
3. 食事療法の実際について説明できる。

(放射線治療)

1. 放射線とはなにか、その種類と性質について学ぶことができる。
2. 放射線診断と放射線治療について学ぶことができる。

(手術療法)

1. 手術侵襲とはなにかについて学ぶことができる。
2. 手術侵襲と生体の反応について学ぶことができる。

(麻酔)

1. 麻酔の種類や方法について学ぶことができる。
2. 麻酔による生体反応について学ぶことができる。

(救命救急)

1. 救急処置の対象となる患者の特性について学ぶことができる。
2. 救急処置法の原則について学ぶことができる。
3. 心肺蘇生法(一次救命・二次救命)について学ぶことができる。

授業計画・授業内容

全15回(30H)の授業は、第1~4回(外科的治療)と第12回(手術療法)は亀山敏、第5~9回(食事療法)は木幡恵子、第10~11回(放射線治療)は嶋田匡、第13回(麻酔)と第14・15回(救命救急)は、樫木賢三が担当する。

(外科的治療)

- 第1回 甲状腺疾患 甲状腺機能亢進症 甲状腺癌について
 第2回 肺癌について 肺の手術について 乳房の手術について
 第3回 乳癌の手術 胃癌について 胃の手術について
 第4回 大腸の疾患 大腸の手術について

(食事療法)

- 第5回 (栄養素の復習、消化吸収) NSTと看護と食事 病院食 栄養補給法
 第6回 生活習慣病 ・糖尿病・高血圧症・脂質異常症の食事の実際
 第7回 DM交換表例 呼吸器疾患・循環器疾患の食事
 第8回 消化器疾患の食事、栄養補給(胃、腸、肝臓)
 第9回 膵炎 腎疾患の食事 (レポートの説明)

(放射線治療)

第 10 回 放射線治療について

第 11 回 画像診断について

(手術療法)

第 12 回 侵襲について 生体の反応 サイトカインについて

(麻酔)

第 13 回 麻酔法、全身麻酔と生体反応について、様々な痛みに対する治療

(救命救急)

第 14 回 救急患者の特性、重篤な病態の把握と治療

第 15 回 心肺蘇生法 (一次救命・二次救命)

評価方法

(食事療法)

レポートにて評価 100%、60 点以上で合格

使用教科書

(外科的治療)

朝本俊司著, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 第 9 版, 医学書院, 2020

(食事療法)

小野章史著, 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 第 12 版第, 医学書院, 2020

足立香代子著, 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 第 3 版, 医学書院, 2020

日本糖尿病学会編著, 糖尿病食事食品交換表 第 7 版, 日本糖尿病協会・文光堂, 令和 1 年

(放射線治療)

青木学著, 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 第 9 版, 医学書院, 2020

(手術療法)

矢永勝彦著, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第 11 版, 医学書院, 2020

(麻酔)

矢永勝彦著, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第 11 版, 医学書院, 2020

(救命救急)

矢永勝彦著, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第 11 版, 医学書院, 2020

参考書

特になし

その他

特になし

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		薬理学	横山 基樹	1	1 (30)	後期
授業概要						
薬理作用の基礎知識に基づき、主な薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬理の管理について学び、疾病の回復を促進する薬物療法の原理を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 主な疾患の機序と理解するとともに、それに関連する薬物の薬理作用に関して説明できる。 2. 薬物の主作用と有害作用を理解するとともに相互作用や耐性について説明できる。 3. 実臨床において、薬剤を使用する目的と、その際の注意点を説明できる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回	薬物が作用するしくみと投与経路による作用の違い					
第 2 回	薬物の ADME について 作用と副作用について					
第 3 回	末梢神経系の作用薬について（交感神経系と副交感神経系の役割と薬物が作用する事による生体反応について）					
第 4 回	中枢神経系の作用薬について（麻酔薬・催眠薬・抗不安薬・抗精神病薬・抗うつ薬・パーキンソン病治療薬）					
第 5 回	中枢神経系の作用薬について（抗てんかん薬・麻薬性鎮痛薬）					
第 6 回	抗感染症薬について（感染症に使用される治療薬と、特殊な感染症とその治療薬について）					
第 7 回	抗ガン薬について					
第 8 回	免疫治療薬について・抗アレルギー薬について・抗炎症薬について					
第 9 回	循環器系に作用する薬物について（抗高血圧薬・狭心症治療薬・心不全治療薬）					
第 10 回	循環器系に作用する薬物について（抗不整脈薬・利尿薬・脂質異常治療薬）					
第 11 回	循環器系に作用する薬物について（抗血液凝固系治療薬・貧血治療薬）					
第 12 回	呼吸器系に作用する薬物について・消化器系に作用する薬物について・生殖器系に作用する薬物について					
第 13 回	物質代謝に作用する薬物について（糖尿病治療薬・甲状腺疾患治療薬・骨粗鬆症治療薬・ビタミン）					
第 14 回	皮膚科用薬・眼科用薬について・救急に使用される薬剤について・漢方薬について					
第 15 回	・消毒薬について・輸液及び血液製剤について まとめ					
※ 講義の進捗状況に応じて調整することがある。						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
吉岡充弘著，系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学，第 14 版，医学書院，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		保健医療論	三浦 稔	3	1（15）	通年
授業概要						
保健医療の概念を理解し、健康な生活と現在の保健医療・福祉との関係および保険医療・福祉に関する問題・保健医療の動向について理解する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度について理解できる。 2. 社会福祉の法制度について理解できる。 3. 社会保障制度、保健医療制度、社会福祉の動向が理解できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 健康とは 病の体験</p> <p>第 2 回 救急医療と病院</p> <p>第 3 回 わが国の医療保険のしくみ</p> <p>第 4 回 少子高齢社会と世代間のきずな</p> <p>第 5 回 私たちの生活と健康</p> <p>第 6 回 生命倫理学と癌床倫理学</p> <p>第 7 回 医療を見つめ直す新しい視点</p> <p>第 8 回 総まとめ</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
<p>小泉俊三著，系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [1] 総合医療論，第 3 版，医学書院，2020</p> <p>一般財団法人，厚生労働統計協会 国民衛生の動向 2018/2019 年（第 65 巻第 9 号）</p>						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		公衆衛生学	非常勤講師	1	2（30）	前期
授業概要						
<p>集団の中で健康現象を捉え、個と個の関係、個と環境との関係、集団と集団との関係という広い視野での生態学的なものを見方を学ぶ。健康現象を集団の中で捉え、医療を社会的・文化的な視点から総合的に理解する。人々の健康を保持増進し、疾病を予防し保健医療・福祉に関する環境を保全し、社会の活力を高める機能を理解する。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念や活動方法、健康の考え方や成立要素に関して説明することができる。 2. 人口生態統計、人口動態統計に関して理解できる。 3. 感染症や食中毒に関して医療従事者としての必要な説明ができる。 4. 食品衛生や生活環境に関する基本的な知識を理解している。 5. 母子保健、学校保健、産業保健に関する活動や仕組みを説明できる。 6. 生活習慣病や精神保健に関する基本的な知識を理解している。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 初回ガイダンス 公衆衛生学の学び方 第 2 回 公衆衛生の概念や活動の方法について 第 3 回 健康の成立要素 集団検診 疫学について 第 4 回 健康の指標 人口静態統計（出生地） 第 5 回 健康に関する指標 人口動態統計 出生、死亡 死因等 第 6 回 感染症・成立三要因 ・感染症法・予防接種等 第 7 回 感染症法の理解（対象疾患など） 第 8 回 食品と衛生（食中毒・国民の栄養状態） 第 9 回 生活環境の保全について（地球環境問題、生活環境他） 第 10 回 医療・介護の保障制度（保険・サービス他） 第 11 回 母子保健（1）（母子保健の指標、乳児死亡率、死産 他） 第 12 回 母子保健（2）（母子保健の制度、母子保健行政 他） 第 13 回 学校保健 労働衛生（子どもたちの健康 働く人々の健康） 第 14 回 生活習慣病 精神健康対策 他 まとめ 第 15 回 試験と評価 試験及び全体解説</p>						
評価方法						
<p>授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格</p>						
使用教科書						
<p>清水忠彦著，わかりやすい公衆衛生学，第 4 版，ヌーヴェルヒロカワ，2020 井部俊子他，国民衛生の動向 2019/2020（第 66 巻第 9 号），一般財団法人 厚生労働統計協会，2019</p>						
参考書						
<p>特になし</p>						
その他						
<p>特になし</p>						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		社会福祉	寺尾 賢一	3	1（15）	前期
授業概要						
社会福祉の概念を理解し、社会福祉の制度・関連法規について理解する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の変化（人口、地域社会、家族・個人、経済状況の変化）について理解できる。 2. 医療保障制度の構造と体系、特徴について理解できる。 3. 医療保険の種類、特徴について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 社会福祉とは・福祉の 3 つの領域・社会保障とは、目的、機能・体系</p> <p>第 2 回 社会保障について 現代社会の動向</p> <p>第 3 回 現代社会の状況 医療保障</p> <p>第 4 回 医療保障 医療保険について</p> <p>第 5 回 介護保険制度について</p> <p>第 6 回 介護・所得・公的保証について</p> <p>第 7 回 公的扶助 社会福祉の分野 社会福祉の実践と医療</p> <p>第 8 回 総まとめ</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
福田素生著，系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉，第 21 版，医学書院，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野		関係法規	澤田信子 小林美沙	3	2（30）	通年
授業概要						
健康な生活を維持するための、保険医療の制度と関連する法規について学ぶ。専門職業人として看護師の責任と義務等に関する法規を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 法に対する基本的知識を学ぶことにより、社会生活を営む者としての再認識出来る。 2. 法制度改正の変遷と、現在の制度を理解することで未来の課題を考えることにつなげる。 3. 医療、介護サービスの提供体制改革後の姿がみえ、自分の働く場所、役割を描くことが出来る。 4. 保健師助産師看護師法を中心に医療、福祉関連資格者法を学び看護の専門性を考えることが出来る。 						
授業計画・授業内容						
全 15 回（30H）の授業は、第 1～7 回は小林美沙、第 8～14 回は澤田信子が担当。第 15 回は総まとめとする。						
第 1 回	導入、シラバスの説明、法の概念 衛生法の沿革（健康に関する時代のニーズと、主な制度の変遷）【第 1 章】					
第 2 回	保健衛生法① A 共通保険法（地域保健法、健康増進法）B 分野別保健法（精神保健および精神障害者福祉法および各分野の関連法）【第 4 章】					
第 3 回	保健衛生法②（母子保健中心に、他、自殺対策基本法、感染処に関する法等の理解と保健所の事業）【第 4 章】					
第 4 回	薬務法 A 薬事一般に関する法律（医療品医療機器等法） B 人などの組織を用いた医療関連法 C 薬害被害者の救済など D 麻薬・毒物 【第 5 章】 環境衛生法 A 営業 B 環境整備 【第 6 章】					
第 5 回	社会保健法（我が国の医療提供のしくみ、費用保障、年金、手当 介護保険法 等）【第 7 章】					
第 6 回	労働法と社会基盤整備法（労基法、労働安全法中心に適正労働の確保に関する法）（次世代育成支援対策推進法、個人情報保護に関する法律、医療介護総合確保推進法等）【第 9 章】					
第 7 回	医療・介護の提供体制に関する法 移植医療に関する法、人の死に関する法、緊急時、災害時の看護等、医療を支える主な法）【第 10 章】					
第 8 回	保健師助産師看護師法（身分、試験、業務範囲の規範等）【第 2 章】					
第 9 回	保健師助産師看護師法の改正経緯（改正の内容と理由、看護を取り巻く社会背景）【第 2 章】					
第 10 回	看護師等の人材確保の促進に関する法律 【第 2 章】					
第 11 回	医療関係資格法（医師法、歯科医師法。薬剤師法、診療放射線技師法等、看護の近隣領域の資格者の法的理解）【第 3 章】					
第 12 回	医療法①（医療法概念、医療法改正の経緯と医療を取り巻く社会背景、現状と課題）【第 3 章】					
第 13 回	医療法②（病院開設から病院等の運営管理等、人員配置基準、医療計画等、病床の機能区分 公的医療機関、法人等病院開設者用語）【第 3 章】					
第 14 回	福祉の基盤（社会福祉法、生活保護法、児童福祉法等児童に関連する法の理解、障害者総合支援法等、障害分野の法）高齢者、児童 虐待防止法 【第 8 章】					
第 15 回	総まとめ 筆記試験の実施					
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価（各講師 50%ずつの配点）、試験は各々 60 点以上で合格。						
使用教科書						
森山幹夫著、系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令、第 50 版、医学書院、2018 看護行政研究会 看護六法 平成 30 年版 新日本法規出版						
参考書						
特になし						
その他						
第 8 回～第 14 回の授業は、プロジェクター環境で行います。						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学概論	深川知恵子	1	1 (30)	前期
授業概要						
人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度について学習する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の終了時には、「看護とは何か」現時点で考える自己の看護について述べることができる。 2. 現在の看護に至るまでの歴史的変遷と看護理論家の業績についてグループワークを行い、「看護」への関心を持ち活発に意見交換できる。 3. 看護の対象となるのは、人であり、心と体・社会において生活者であること、家族の大切さについて理解し述べることができる。 4. 看護における倫理とは何か、なぜ倫理を学ぶ必要があるのか、具体的な事例を通して考え、述べるができる。 5. 現代社会における医療・保健・福祉サービスの仕組みが理解でき、様々な職種の中での看護師の役割について説明できる。 						
授業計画・授業内容						
全 15 回の授業形式は、講義、グループワーク（ポスター発表を含む）で構成する。						
<p>第 1 回 授業計画の説明、「看護とは」グループワークの実施、看護の原点、看護の誕生と変遷</p> <p>第 2 回 看護の歴史、近代看護の創始者ナイチンゲールの誕生</p> <p>第 3 回 看護の定義、看護理論家にみる看護の定義、ヘンダーソン VTR 視聴、次回グループワークの説明</p> <p>第 4 回 看護理論家が生まれた時代背景、看護とは何か、看護の独自の機能についてグループワーク</p> <p>第 5 回 第 4 回に引き続きグループワーク</p> <p>第 6 回 看護理論家グループワーク発表（ヘンダーソン基本的ニード等）</p> <p>第 7 回 第 6 回に引き続きグループワーク発表</p> <p>第 8 回 看護の役割と機能、看護の継続性と情報共有、看護実践に必要な要素と質の保障</p> <p>第 9 回 看護の対象となる人の理解、人間の心と体、社会において生活者である対象・家族の理解</p> <p>第 10 回 国民の健康・生活全体の把握、健康とは、障がいとは、生活との関係を考える</p> <p>第 11 回 看護の提供者の理解、日本における看護職の成立と発展・経緯、看護のキャリア開発</p> <p>第 12 回 看護における倫理、倫理的問題やジレンマの解決グループワーク</p> <p>第 13 回 看護の提供の仕組み、提供の場と人員配置、サービスの評価決定の仕組みの理解</p> <p>第 14 回 チーム医療、医療事故と防止策</p> <p>第 15 回 看護とは、講義のまとめ、レポート提出についての説明</p>						
評価方法						
授業終了後のレポートにて評価。100 点満点中、60 点以上で合格。60 点未満は、再レポートの提出。授業前後のノート整理の確認を何度か行い、提出時間と内容の確認で 10 点を加算する。						
使用教科書						
茂野香おる他，基礎看護学[1]看護学概論 第 17 版，医学書院，2020						
参考書						
<p>フローレンスナイチンゲール著 湯楨ます他訳，看護覚え書，改訳第 7 版，現代者，2011</p> <p>徳本弘子著，ワークブックで学ぶナイチンゲール看護覚え書，メジカルフレンド社，2018</p>						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業外に行うべき学習 ナイチンゲールの看護覚え書を読み、毎回ワークブックの練習問題を解く。テキストと配布するプリントを活用し、授業アンケートの本日の学びを詳細に記入し復習を行なう。グループワークでは、発表までに各自図書室などを利用し、文献検索を行ない学習する必要あり 2. 電子黒板使用、VTR 使用、グループワークでは模造紙又はパソコンを使用しポスター発表するための事前準備が必要 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学技術 I（A） （スクリーニング）	長 清美	1	1（30）	前期
授業概要						
バイタルサイン測定、巻法、身体計測の目的の学習と技術の習得のための演習を行う。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサインの変動とその要因について述べることができる。 2. バイタルサイン測定の意義をふまえて、正確にバイタルサイン測定の実施ができる。 3. 巻法の目的と方法・留意点を理解し、安全安楽に実施できる。 4. 身体計測の目的と方法、計測にあたっての留意点を理解し、安全安楽に実施できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 看護技術の特徴・範囲、看護技術を適切に実践するための要素、看護技術の発展と取得のために</p> <p>第 2 回 スクリーニング、ヘルスアセスメントとは 健康とセルフケア能力のアセスメント 全体の概観</p> <p>第 3 回 ホメオスタシス、バイタルサイン観察の意義、変動因子と個体差、一般的な方法「体温」「脈拍」</p> <p>第 4 回 一般的な方法「呼吸」「血圧」</p> <p>第 5 回 一般的な方法「血圧」「意識」、看護における記録と報告</p> <p>第 6 回 バイタルサイン測定の演習要項の説明、デモンストレーション</p> <p>第 7 回 バイタルサイン測定演習（各自練習をして最終評価を受ける）</p> <p>第 8 回 バイタルサイン測定演習（各自練習をして最終評価を受ける）</p> <p>第 9 回 巻法とは、温巻法・冷巻法それぞれの方法と留意点</p> <p>第 10 回 巻法演習</p> <p>第 11 回 巻法演習</p> <p>第 12 回 身体計測のそれぞれの目的と留意点、それぞれの計測からわかること</p> <p>第 13 回 身体計測演習</p> <p>第 14 回 身体計測演習</p> <p>第 15 回 総まとめ</p>						
評価方法						
<ol style="list-style-type: none"> ① 技術演習 レポートとチェックリスト提出 20 点 ② 技術練習 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定を自己練習し担当教員の評価を受ける 20 点 ③ 筆記テスト 60 点(100 点満点とし、60 点未満は不合格とする) 						
使用教科書						
<p>茂野香おる他，基礎看護技術 I・基礎看護学②，第 17 版，医学書院，2020</p> <p>茂野香おる他，基礎看護技術 II・基礎看護学③，第 17 版，医学書院，2020</p> <p>熊谷たまき他，フィジカルアセスメントがみえる，第 1 版，メディックメディア，2019</p> <p>竹尾恵子他，看護技術プラクティス，第 4 版，学研メディカル，2019</p>						
参考書						
必要時、プリントを配布する						
その他						
技術演習後の技術練習の方法やグループ、担当教員について説明する						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学技術 I（B） （フィジカルアセスメント）	長 清美	1	1（15）	前期
授業概要						
ヘルスアセスメントの概念、フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データを学ぶ。身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することを学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における身体診察の意義・目的が理解できる。 2. 人体の構造と機能を関連付けながら、フィジカルイグザミネーションの基本的知識が理解できる。 3. 観察事項の意味を理解し、測定値を正確に得るための技術を身につけることができる。 4. 測定値を正確かつ有効に評価・活用するための基準値や指標について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
講義は教室で行う。後半の演習については実習室を使用する。						
第 1 回	ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントとはなにか。問診・視診・聴診・触診・打診の基礎的知識					
第 2 回	ヘルスアセスメントの実際。基本情報（健康歴）の聞き取り、インタビューの実際。					
第 3 回	呼吸・循環の解剖生理。診察・測定の意義。イグザミネーションの測定技術と留意点。					
第 4 回	腹部・筋/骨格系の解剖生理。診察・測定の意義。イグザミネーションの測定技術と留意点。 【演習1】筋/骨格系・脳神経系のフィジカルイグザミネーションの実際（実習室使用）					
第 5 回	脳神経系の解剖生理。診察・測定の意義。					
第 6 回	【演習2】呼吸・循環系・腹部のフィジカルイグザミネーションの実際（実習室使用）					
第 7 回	【演習3】模擬患者へのフィジカルアセスメントの実際（実習室使用）					
第 8 回	総まとめ					
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
茂野香おる他，基礎看護技術 I・基礎看護学②，第 17 版，医学書院，2020						
茂野香おる他，基礎看護技術 II・基礎看護学③，第 17 版，医学書院，2020						
熊谷たまき他，フィジカルアセスメントがみえる，第 1 版，メディックメディア，2019						
参考書						
坪井良子・松田たみ子編，考える基礎看護技術 I 看護技術の実際，第 3 版，ヌーヴェルヒロカワ，2018						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中はパソコン、電子黒板を使用する場合がある 2. 演習は実習室で行う。事前に教科書で手順や根拠を確認し、自主練習を行ったうえで演習に臨むこと 3. 演習はあらかじめ提示したグループで実施する。練習はなるべくグループで行うこと 4. 模擬患者へは、倫理的配慮を十分に行う。 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学技術Ⅱ (看護過程)	太田 希子	1	1 (30)	通年
授業概要						
看護実践に必要な看護過程の基本的事項や構成要素について学ぶ。さらに健康障害を持つ対象の紙上事例を通して、看護過程展開方法について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは何か、看護過程を用いる意義が理解できる。 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考えについて理解することができる。 3. 看護過程を構成する要素とそのプロセスが理解できる。 4. アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階について、その基本的な考え方が理解できる。 5. 事例を用いた看護過程展開をし、情報収集から看護計画の立案までを行うことができる。 						
授業計画・授業内容						
授業形式は、講義、グループワーク、演習で構成する（ 第 1～5 回目までが講義、第 6～10 回まで演習、グ 10 回～15 回まで事例展開とする ）						
第 1 回	看護過程とは 1) 看護・看護過程の歴史 2) 看護過程とは何か 3) 看護過程の構成要素 4) 看護過程を用いる利点					
第 2 回	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的判断 4) リフレクション					
第 3 回	看護過程の各段階 アセスメント（情報収集とは 情報収集の方法 主観・客観的情報の分類 情報の持つ意味の分析）					
第 4 回	看護過程の各段階 アセスメント（全体像） 看護問題の明確化（看護診断） 看護問題の種類、看護問題の優先順位					
第 5 回	看護過程の各段階 看護計画立案・実施・評価					
第 6 回	事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習①					
第 7 回	事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習②					
第 8 回	事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習③					
第 9 回	事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習④					
第 10 回	事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習⑤					
第 11 回	事例展開、個人指導（情報の分類・分析まで）					
第 12 回	事例展開（情報の分類・分析まで）					
第 13 回	事例展開（全体像まで）					
第 14 回	事例展開（関連付け・優先順位まで）					
第 15 回	事例展開（看護計画立案まで）					
評価方法						
紙上事例展開 評価表 100%（事例事前学習・アセスメント～看護計画立案まで）						
使用教科書						
有田清子他，基礎看護技術Ⅰ・基礎看護学②，第 16 版，医学書院，2018						
参考書						
必要時、プリントを配布する						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学技術Ⅲ (安全・安楽/コミュニケーション)	蛭名 千昌 吉田 妙恵子	1	1 (30)	前期
授業概要						
看護実践の基盤となる基本技術(感染防止の技術、安全確保の技術、コミュニケーション)を学習する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関での感染防止の必要性が理解できる。 2. 感染防止における看護師の責務と役割が理解できる。 3. 感染予防の具体的方法の技術を身につけることができる。 4. 専門的援助関係を支えるコミュニケーションについて理解できる。 						
授業計画・授業内容						
第 15 回の授業は、第 1～9 回目まで蛭名千昌が「感染防止の技術」を担当、第 10～15 回目まで吉田妙恵子が「コミュニケーション」を担当する。授業形式は講義、グループワーク、ビデオ学習で構成し、演習とロールプレイングで構成する。						
第 1 回 感染防止の基礎技術について学ぶ(グループワーク) 第 2 回 感染防止対策の基本である衛生的手洗い(流水による手洗い・擦式アルコール消毒)を実践/演習① 第 3 回 標準予防策の必要性について学ぶ(グループワーク) 第 4 回 個人防護用具着脱を実践/演習② 第 5 回 感染経路別予防策について学び、感染予防の具体的方法がわかる 第 6 回 医療事故防止の必要性を理解し、安全確保の技術について学ぶ(グループワーク) 第 7 回 無菌操作の練習 第 8 回 無菌操作を正しく実践/演習③ 第 9 回 無菌操作演習 第 10 回 コミュニケーションの意義と目的/構成要素と成立過程を学ぶ 第 11 回 関係構築のためのコミュニケーションの基本について学ぶ 第 12 回 効果的なコミュニケーションの基本(クロズドクエスチョン・オープンクエスチョン・アサーティブネス) 第 13 回 ロールプレイングの説明と準備 第 14 回 ロールプレイング 第 15 回 ロールプレイング/総まとめ						
評価方法						
安全安楽 ・演習①②③各チェックリスト提出 各 5%×3 回=15% ・無菌操作についてはレポート提出で 5%、安全・安楽は筆記試験 80%、合わせて 100%とする 60%以上で合格 コミュニケーション ・ロールプレイングレポート提出 100% レポート試験は 60%以上で合格						
使用教科書						
茂野香おる他，専門分野 I・基礎看護技術 I・基礎看護学②，第 16 版，医学書院，2020 任和子他，専門分野 I・基礎看護技術 II・基礎看護学③，第 17 版，医学書院，2020						
参考書						
竹尾 恵子他，看護プラクティス，第 4 版動画付き，医学書院，2019						
その他						
電子黒板，DVD 使用。グループワーク，演習ではパートナーの技術をチェックする						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学技術Ⅳ （環境）	笹木 郁哉	1	1（30）	前期
授業概要						
療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整について学ぶ。ベッド周囲と病床の環境整備・ベッドメイキング・リネン交換の実際について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助における環境のとらえ方の視点が理解できる。 2. 空気の清浄性、明るさ、静けさ、室内の気候、清潔性など室内の環境条件が理解できる。 3. 寝具に求められる条件、および治療具としての寝具について理解できる。 4. プライバシーの調整、テリトリーと個人空間などについて学び、看護援助につなげていくための考え方が理解できる。 5. ベッドメイキング・環境整備・リネン交換の基本的技術が実施できる。 						
授業計画・授業内容						
講義は教室もしくは実習室で行う。演習は合計3回あり、いずれも実習室で行う。演習の進め方についてはその都度説明する。						
第1回	環境の概念。病院の構造と機能。患者を取り囲む環境					
第2回	環境についての基本事項と看護援助における環境の位置付けについて 病床環境の調整にかかわる基礎知識について。（空気・明るさ・静けさ・気候・清潔性）					
第3回	寝具に求められる主な条件。プライバシーの調整。テリトリーと個人空間について					
第4回	病床の作り方と整備。次回の演習の進め方について。（実習室使用）					
第5回	【演習1】安全、快適で崩れにくいベッド作成の援助の実際（実習室使用）					
第6回	【演習1】安全、快適で崩れにくいベッド作成の援助の実際（実習室使用）					
第7回	病床環境の調整についての基礎知識と根拠					
第8回	次回演習の説明と環境調整の計画についてグループワーク					
第9回	【演習2】病床環境の調整についての実際（実習室使用）					
第10回	【演習2】病床環境の調整についての実際（実習室使用）					
第11回	臥床患者がいる状態でのリネン交換の手順・根拠と演習の進め方について					
第12回	【演習3】臥床患者がいる状態でのリネン交換の実際（実習室使用）					
第13回	【演習3】臥床患者がいる状態でのリネン交換の実際（実習室使用）					
第14回	包布の使用について（実習室使用）					
第15回	総まとめ					
評価方法						
筆記試験 85% 演習毎のレポート 5%×3回=15%						
合計 100点満点中 60点以上で合格						
使用教科書						
有田清子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第17版，医学書院，2020						
参考書						
坪井良子，松田たみ子編，考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の実際，第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2018						
本庄恵子，吉田みつ子監修，写真でわかる実習で使える看護技術，インターメディカ，2017						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中はパソコン、電子黒板を使用する場合がある 2. 演習は実習室で行う。事前に教科書で手順や根拠を確認し、自主練習を行ったうえで演習に臨むこと 3. 演習はあらかじめ提示したグループで実施する。練習はなるべくグループで行うこと 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学技術V (清潔・衣生活)	小笠原 直美	1	1 (30)	前期
授業概要						
<p>「基礎看護学 I」で学んだ考え方を適応し、医療安全の確保・患者および家族への説明と助言・的確な看護判断と適切な看護技術の提供ができるための看護技術分類 14 領域の「5.清潔・衣生活の援助技術」の看護援助を行う具体的方法について学習する。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚・粘膜の構造と機能について理解し、述べることができる。 2. 清潔援助の効果と全身への影響を理解し、述べるができる。 3. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識と実際を学び実施して評価することができる。 4. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、援助の実際と寝衣交換の手順を学び実施して評価することができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>授業の形式は、第 1～3 回・第 8～9 回・第 12 回・第 15 回は講義、第 4～7 回・第 10～11 回・第 13～14 回は演習で構成する。</p>						
<p>第 1 回 授業計画・評価の説明、皮膚・粘膜の構造と機能、清潔援助の意義と重要性 第 2 回 身体の清潔を保つ援助方法の種類と対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点 第 3 回 衣生活の意義と重要性、足浴とフットケアの基礎知識と対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点 第 4 回 演習：全身清拭と寝衣交換を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 5 回 演習：全身清拭と寝衣交換を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 6 回 演習：足浴と洗髪を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 7 回 演習：足浴と洗髪を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 8 回 整容（洗面、眼・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り）の意義と重要性和対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点 第 9 回 陰部洗浄の意義と重要性、援助の基礎知識と対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点 第 10 回 演習：陰部洗浄とオムツ交換を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 11 回 演習：陰部洗浄とオムツ交換を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 12 回 口腔ケアの意義と重要性、援助の基礎知識と対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点 第 13 回 演習：口腔ケアを実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 14 回 演習：口腔ケアを実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 15 回 清潔援助のまとめ、テスト（筆記試験）</p>						
評価方法						
<p>演習終了後のレポートとチェックリストの提出で評価 20 点、技術練習の評価 20 点、講義終了後の筆記試験 60 点 合計 100 点で 60 点未満は不合格とする。</p>						

使用教科書

任和子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第17版，医学書院，2020

参考書

竹尾恵子，看護技術プラクティス，第4版〔動画付き〕，学研メディカル秀潤社，2019

三上れつ・小松万喜子編集，演習・実習に役立つ基礎看護技術〔DVD付〕―根拠に基づいた実践をめざして―，第4版，ヌーヴェルヒロカワ，2015

坪井涼子・松田たみ子他，考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の実際，第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2018

その他

1. 授業外に行うべき学習

看護技術を習得するには、エビデンスに基づく知識と手順を反復練習して覚える事が重要です
臨床の場に行って患者様に援助ができるようになるには、練習しかありません

2. 電子黒板使用、VTR 使用

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学技術VI (食事・排泄/活動・休息/危篤・死亡時)	高橋英恵 小笠原直美	1	1 (30)	通年

授業概要

食事・排泄・活動・休息・危篤死亡時における基礎知識の理解を習得し、対象の状態に応じたアセスメントを行い援助技術の方法を習得する。

到達目標

【食事・排泄】

1. 人間にとっての食事・栄養の意義と基礎知識について理解し、栄養状態のアセスメントの方法を身につけることができる。
2. 対象の状況に応じた食事・栄養にかかわる援助方法を身につけることができる。
3. 人間の排尿排便に関するメカニズム及び影響要因が理解できる。
4. 人間にとって排泄の意義、重要性を理解し、排泄機能障害、行動障害の程度など対象の状態をアセスメントできる。
5. 対象に必要な排泄援助技術を、原理原則を踏まえ、安全安楽に実施できる方法を身につけることができる。
6. 対象の状態に合わせた排泄援助技術の創意工夫や応用について考えることができる。

【活動・休息】

1. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理が理解できる。
2. いろいろな体位とその目的を理解し、体位変換の援助が理解できる。
3. 車いす・ストレッチャーについて理解し、移乗の援助と移送の方法が理解できる。
4. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠に障害を持つ患者への具体的な援助が理解できる。

授業計画・授業内容

食事・排泄の授業は、第1回1～2回・第4～5回・第7回は講義、第2回・6回は演習（担当：小笠原）
活動・休息の授業は、第8～9回・第12回は講義、第10～11回・第13～14回は演習（担当：高橋）

【食事・排泄】

- 第1回 栄養状態・体液・電解質のバランス査定 それぞれのアセスメントの方法を学ぶ
日本人の食事摂取基準 栄養素と生活習慣病 日本人の食生活の特徴
食欲を促進するためのケア 食事摂取行為の自立へのケア 食事制限のある場合のケア 食事指導
- 第2回 摂食・嚥下訓練 摂食・嚥下障害の基礎知識（原因・仕組みとメカニズム・アセスメントとリハビリテーション） 観察の視点 援助の実際（基礎訓練・基礎訓練のプロセス・摂食訓練のプロセス）
- 第3回 演習（食事介助の実際）
- 第4回 排泄の意義・排尿排便のメカニズム・排泄のアセスメント 自然排尿・排便の援助
- 第5回 摘便・おむつ交換・失禁ケア・導尿・膀胱留置カテーテル・浣腸・ストーマ造設
- 第6回 演習（床上排泄 尿器・便器）
- 第7回 危篤死亡時の看護

【活動・休息】

- 第8回 人間工学的な視点からのボディメカニクス 良い姿勢とは 運動・活動を促す援助の過程
- 第9回 いろいろな体位と体位変換・体位保持の具体的な援助方法 次回の演習の進め方について
- 第10回 演習（ベッド上でのいろいろな体位変換の実際：水平移動・側臥位・ファウラー位・長座位・端坐位）
- 第11回 演習（ベッド上でのいろいろな体位変換の実際：水平移動・側臥位・ファウラー位・長座位・端坐位）
- 第12回 日常生活における休息・睡眠の意義 生体リズムと生理現象 休息と睡眠に関する生活習慣 休息・睡眠を促す方法
- 第13回 演習（車いす・ストレッチャーの移乗と移送）
- 第14回 演習（車いす・ストレッチャーの移乗と移送）
- 第15回 総まとめ

評価方法

【食事・排泄】技術演習レポート/チェックリスト	10%	筆記試験	90%	
【活動・休息】技術練習レポート/チェックリスト	10%	筆記試験	90%	合計 100 点満点中 60 点以上で合格

使用教科書

任和子他著, 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 第 17 版, 医学書院, 2020

参考書

本庄恵子, 吉田みつ子監修, 写真でわかる実習で使える看護技術, インターメディカ, 2017
竹尾恵子, 看護技術プラクティス, 第 4 版 [動画付き], 学研メディカル秀潤社, 2019

その他

1. 講義中はパソコン、電子黒板を使用する場合がある
2. 演習は実習室で行う。事前に教科書で手順や根拠を確認し、自主練習を行ったうえで演習に臨むこと
3. 演習はあらかじめ提示したグループで実施する。練習はなるべくグループで行うこと

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護技術Ⅶ (看護研究)	小笠原 直美	2	1 (30)	通年
授業概要 ケーススタディを通して看護の研究や実践の仕方を学ぶ。						
到達目標 1. ケーススタディを行うことで担当事例の看護実践を客観的に振り返ることができる。 2. 研究目的を明らかにできる。 3. 研究計画書を立てることができる。 4. ケーススタディによって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成することができる。						
授業計画・授業内容 授業形式は講義、担当教員からの指導とする 第 1 回 ケーススタディとは 研究計画書の構成について 第 2 回 倫理的配慮について ケーススタディの意義 研究におけるクリティークの意義 第 3 回 ケーススタディの進め方、テーマの決定 第 4 回 担当教員の発表、担当教員からテーマ、研究計画書についての指導 第 5 回 担当教員から原著論文の指導 第 6 回 第 5 回に引き続き担当教員から指導 第 7 回 第 6 回に引き続き担当教員から指導 第 8 回 第 7 回に引き続き担当教員から指導 第 9 回 第 8 回に引き続き担当教員から指導 第 10 回 担当教員から抄録の指導 第 11 回 発表オリエンテーション、発表準備、発表者は発表原稿作成 第 12 回 発表準備 第 13 回 研究発表 第 14 回 研究発表 第 15 回 研究発表						
評価方法 評価表にて評価 60 点以上合格						
使用教科書 松本孚他，看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方，第 2 版，照林社，2020						
参考書 坂下玲子ほか，系統看護学講座 別巻 ケーススタディ，第 1 版，医学書院，2020						
その他 研究の授業後は担当教員に指導を受けながらケーススタディを完成させます。 最後は研究発表で数人に代表として発表してもらいます。						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学援助論 I (検査・治療・処置)	蛭名 千昌	1	1 (30)	後期
授業概要						
検査の介助に関する基礎知識、安静療法、薬物療法、食事療法の基礎知識を学習する。また、採血・注射の演習を安全に実施する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 安静療法が必要となる状態が理解でき、安静療法の目的と具体的援助について理解できる。 2. 薬物療法について、与薬の基礎知識、与薬の種類と方法、看護師の役割について理解ができる。 3. 皮膚の構造をふまえ、創傷の治癒過程や褥瘡予防について理解できる。 4. 検体検査・生体検査の基礎知識、診察、検査時の看護師の役割について理解できる。 5. 筋肉注射・採血・包帯法・創傷管理の演習を、安全に行うことができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>授業は、第 1～3 回・第 8～10 回は講義、第 4～7 回・第 11～14 回は演習、第 15 回はまとめとする。</p> <p>第 1 回 安静療法（目的・具体的援助）、薬物療法（与薬方法・薬効・副作用の観察）</p> <p>第 2 回 輸液・輸血管理（刺入部の観察、輸液ポンプ・シリンジポンプ、点滴静脈注射、輸血、注射器・針の構造や種類）</p> <p>第 3 回 皮膚・創傷の管理（包帯法、創傷管理、褥瘡の予防・処置）</p> <p>第 4 回 筋肉注射演習</p> <p>第 5 回 筋肉注射演習</p> <p>第 6 回 静脈注射演習</p> <p>第 7 回 静脈注射演習</p> <p>第 8 回 診察・検査時の看護師の役割、検体検査（血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、髄液）</p> <p>第 9 回 生体検査（エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学検査）</p> <p>第 10 回 経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）の測定、血糖測定、モニタリング機器の取り扱い</p> <p>第 11 回 採血演習</p> <p>第 12 回 採血演習</p> <p>第 13 回 採血演習</p> <p>第 14 回 採血演習</p> <p>第 15 回 総まとめ</p>						
評価方法						
<p>①検査：採血演習 レポートとチェックリスト提出 10% 筆記試験 90%</p> <p>②治療・処置：筋肉注射演習 レポートとチェックリスト提出 10% 筆記試験 90%</p>						
使用教科書						
<p>任 和子他，基礎看護技術Ⅱ，第 17 版，医学書院，2020</p> <p>竹尾 恵子他，看護プラクティス，第 4 版動画付き，医学書院，2019</p>						
参考書						
必要時、プリントを配布する						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護学援助論Ⅱ (症状別)	吉田妙恵子	1	1(30)	通年
授業概要						
看護の対象と（家族を含む）なる人々、特に健康障害を持つ対象を理解し、健康障害（主要症状）に応じた看護を学ぶ。						
到達目標						
1. 健康障害に関連する症状のメカニズムについて理解できる。 2. 健康障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメントについて理解できる。 3. 健康障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助と実際を理解できる。						
授業計画・授業内容						
全 15 回の授業形式は、講義、演習・デモンストレーションで構成する。 (吉田妙恵子)						
第 1 回		呼吸機能に関連するメカニズム 代表的な症状と発症のメカニズム・看護上のニーズ・アセスメント				
第 2 回		看護援助（呼吸方法、体位の工夫、日常生活・不安の援助、酸素投与・ネブライザー） 活動・運動や睡眠に関連するメカニズム 代表的な症状と発症のメカニズム・看護上のニーズ・アセスメント 看護援助（安楽な体位、褥瘡予防(褥瘡発生のメカニズム・好発部位・リスクアセスメント援助の実際)				
第 3 回		栄養・代謝のメカニズム 栄養・代謝障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム・看護上のニーズ・アセスメント				
第 4 回		看護援助（非経口的栄養摂取の援助、経管栄養法とその実際（胃管挿入・栄養物注入） 栄養・代謝のメカニズム 栄養・代謝障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム・看護上のニーズ・アセスメント				
第 5 回		看護援助（非経口的栄養摂取の援助、経管栄養法とその実際（胃管挿入・栄養物注入）				
第 6 回		演習： 胃管挿入・栄養物注入				デモンストレーション：酸素吸入・ネブライザー
第 7 回		演習： 胃管挿入・栄養物注入				デモンストレーション：酸素吸入・ネブライザー
第 8 回		循環障害に関連する症状のメカニズム 代表的な症状と発症メカニズム・看護上のニーズ・アセスメント 看護援助（血液循環を促進する援助、心臓の負荷を軽減する援助） 安楽に関連する症状のメカニズム（痛み、吐き気・嘔吐）、安楽に関する看護上のニーズ・アセスメント				
第 9 回		痛みのある患者の援助、吐き気・嘔吐に対する援助				
第 10 回		排泄機能のメカニズム 排泄機能障害に関連する代表的な症状と発症メカニズム 排泄機能障害に関する看護上ニーズ・アセスメント 排泄機能障害に関連するニーズ不足に向けた看護援助				
第 11 回		排泄機能のメカニズム 排泄機能障害に関連する代表的な症状と発症メカニズム 排泄機能障害に関する看護上ニーズ・アセスメント 排泄機能障害に関連するニーズ不足に向けた看護援助				
第 12 回		演習：膀胱留置カテーテルの挿入				デモンストレーション：浣腸
第 13 回		演習：吸引				
第 14 回		演習：吸引				
第 15 回		総まとめ				
評価方法						
①技術演習 レポートとチェックリストの提出（喀痰吸引、胃管・経管栄養、膀胱留置カテーテル） 15%						
②筆記試験 85%（吉田）						
使用教科書						
香春知永他 臨床看護総論・基礎看護学④，第 16 版，医学書院，2018						
参考書						
必要時プリントを配布する						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護実習 I	吉田多恵子 蛭名千昌・笹木郁哉	1	1（45）	後期
授業概要 コミュニケーションや日常生活援助を通して入院生活を送る対象を理解する。						
到達目標 1. 対象の療養生活を理解し、適切な環境調整が実施できる。 2. 観察・コミュニケーションの基本的技術を実践することができる。 3. 対象のおかれている状況と状態に適した日常生活援助を実践することができる 4. 対象および対象を取り巻く人々とのかかわりを通して、看護学生としての態度を学ぶ。						
授業計画・授業内容 《病棟》 ・ 8：30～17：00（7.5 時間） 1 週間（原則として水曜日は午後から帰校日とする） ・ 患者を受け持ち日常生活援助の実践を行う。また、受け持ち患者以外の援助、処置を見学することもある。 《帰校日》 ・ 水曜日の 14：00～16：00（2 時間） ・ 受け持ち患者の記録追加・修正 ・ 技術練習 《学内》 ・ 実習記録 ※他詳細については、実習要綱を参照してください						
評価方法 実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする						
使用教科書 任 和子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第 17 版，医学書院，2020 茂野香おる他，基礎看護技術Ⅰ・基礎看護学②，第 17 版，医学書院，2020 竹尾 恵子他，看護プラクティス，第 4 版動画付き，医学書院，2019						
参考書						
その他 1. 実習記録を綴るファイル（A4 サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4 サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野 I		基礎看護実習 II	吉田多恵子 蛭名千昌・笹木郁哉	1	2 (90)	後期
授業概要 療養生活を送っている対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、看護上の問題を明らかにするための思考過程を養う。また、看護師の役割および多職種との連携・協働について学ぶ。						
到達目標 1. 対象の発達段階および三側面の特徴をふまえ、対象に適した看護問題を導き出すことができる。 2. 対象のおかれている状況と状態に適した日常生活援助を実践することができる。 3. 看護師の役割および保健・医療・福祉チームの連携・協働についてわかる。 4. 看護を学ぶものとしての基本的姿勢・態度を養う。						
授業計画・授業内容 《病棟》 ・ 8 : 30～17 : 00 (7.5 時間) 2 週間 (原則として水曜日を帰校日とする) ・ 患者を受け持ち日常生活援助の実践を行う。また、受け持ち患者以外の援助、処置を見学することもある。 ・ 実習記録 《帰校日》 ・ 9 : 00～16 : 20 (6 時間) ・ 受け持ち患者の記録追加・修正 ・ 技術練習 《学内》 ・ 実習についてのオリエンテーション ・ 実習記録 ※他詳細については、実習要綱を参照してください						
評価方法 実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする。						
使用教科書 任 和子他, 基礎看護技術 II・基礎看護学③, 第 17 版, 医学書院, 2020 茂野香おる他, 基礎看護技術 I・基礎看護学②, 第 17 版, 医学書院, 2020 竹尾 恵子他, 看護プラクティス, 第 4 版動画付き, 医学書院, 2019						
参考書 必要時、プリント配布します。						
その他 1. 実習記録を綴るファイル (A4 サイズ)、事前学習を整理するバインダー (A4 サイズ) 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		成人看護学概論	太田 希子	1	1（15）	前期
授業概要						
成人期の人の健康問題と健康レベルに応じた看護の役割の概要を、身体・心理・社会的特徴を踏まえ理解する。						
到達目標						
1. ライフサイクルにおける成人期の特性と健康問題との相互作用が理解できる。 2. 成人期にある人と家族への健康レベルや個別性に応じた看護の機能・役割が理解できる。						
授業計画・授業内容						
第 1 回 成人とは、何か、生涯発達の視点からの対象理解 第 2 回 生活を営んでいる成人の仕事、家族、人生とは何か 第 3 回 成人期（青年期、壮年期、中年期、向老期）の各期の特徴の理解（グループワーク） 第 4 回 成人各期の生活の特徴と環境、健康の状況を理解する。（グループワーク） 第 5 回 成人期（青年期、壮年期、中年期、向老期）の各期の特徴の理解（グループワーク発表） 第 6 回 成人期（青年期、壮年期、中年期、向老期）の各期の特徴の理解（グループワーク発表） 第 7 回 成人の看護アプローチの基本について、まとめ 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係、人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ、 看護実践における倫理的判断、意思決定支援、家族支援 第 8 回 成人の看護・まとめ(1H)						
評価方法						
1. 講義・GW 参加状況 40% ※GW 事前学習の取り組み状況、講義・GW の取り組み状況にて評価 2. 講義終了時の試験 60%（100 点） ※試験は、試験のみで 100 点満点中、60%以上（60 点以上）で合格						
使用教科書						
小松浩子他，成人看護学総論 成人看護学①，第 15 版，医学書院，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		成人看護学援助論Ⅰ（A）	長 清美 他1名	1	1（30）	通年
授業概要						
成人の健康レベルに対応した看護、成人の健康生活を促すための看護技術、成人保健の動向、成人期の主な疾病と予防、成人の健康保持・増進のための行政対策と看護を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人のさまざまな健康レベルに対応した看護について理解し、述べることができる。 2. 健康とはどのようなもので、どのような要因で危険にさらされ、破綻し、再生・回復していくのかを知り、その過程で看護は何ができるのか、なにをすべきなのか理解し、述べることができる。 3. 成人期の健康生活を回復・維持・促進するための具体的な看護技術を理解し、述べることができる。 4. 疾病構造の変化について、また現在の死因順位やその社会的背景に関して説明できる。 5. 生活習慣病とその危険因子の内容に関して説明できる。 6. 近年の生活習慣病に関する話題や成人がもつ健康上の話題について説明できる。 						
授業計画・授業内容						
全15回（30H）の授業は、第1～10回目までを長清美が担当し、成人の健康レベルに対応した看護、成人の健康生活を促すための看護技術を学ぶ。第11～15回目までを非常勤講師が担当し、成人保健の動向、成人期の主な疾患と予防、成人の健康保持・増進を学ぶ。						
（成人健康レベルに対応した看護）						
第1回	授業計画・評価方法の説明、健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 （健康の急激な破綻、急性期にある人の看護救急医療を必要とする人々）					
第2回	慢性病との共生を支える看護 （慢性病患者の理解、慢性病との共存を支える看護の実践） 学習者である患者への看護技術 （エンパワメントエデュケーション、セルフケアマネジメントを推進する看護技術）					
第3回	障害がある人の生活とリハビリテーション （障害がある人とリハビリテーション、障害がある人とその生活を支援する看護）					
第4回	人生最期の時を支える看護 （終末期医療の現状、人生最期のときを過ごしている人の理解、人生最期のときを支える看護）					
第5回	治療過程にある患者への看護技術 （治療による身体侵襲からの回復促進のための看護技術、安全を援助する看護技術、 日常生活機能保護・維持と社会復帰に向けた看護技術、ボディイメージの変化に対する 看護技術、その人らしい日常生活再構築のための看護技術）、事前学習にてレポート提出					
第6回	第5回に引き続き治療過程にある患者への看護技術					
第7回	第6回に引き続き治療過程にある患者への看護技術					
第8回	症状マネジメントにおける看護技術 （症状マネジメントと看護、症状マネジメントと看護実践モデル、症状マネジメントモデルから 導かれた看護のアプローチ）					
第9回	療養の場を移行する人々への看護技術 （療養の場の移行支援とはどのような活動か、療養の場の移行支援が必要とされる理由 療養の場の移行支援の具体的方法）					
第10回	新たな治療法、先端医療と看護 （新たな治療法・医療処置の開発・普及、新たな治療法・医療処置を受ける患者・家族の看護）、 総まとめ					
（成人期の主な疾患と予防）						
第11回	ガイダンス 授業内容の紹介					
第12回	疾病の構造の変化とその背景（生活習慣等）					
第13回	生活習慣病の危険因子（悪性新生物・心疾患等）					
第14回	発表形式のワーク① ・成人保健の課題について・生活習慣病 他					
第15回	発表形式のワーク②					

評価方法

第1回～第10回の授業終了後、筆記試験実施。試験は60点以上で合格（長担当）
第11回～第15回の授業終了後、課題発表。60点以上で合格（非常勤講師担当）

使用教科書

小松浩子他，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論，成人看護学①，第15版，医学書院，2020
井部俊子他，国民衛生の動向，2019/2020（第66巻第9号），一般財団法人，厚生労働統計協会，2019

参考書

特になし

その他

長担当：必要時プリントを配布する

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野Ⅱ		成人看護学援助論Ⅰ(B) (成人の看護過程の展開)	吉田 妙恵子	2	1(30)	前期
授業概要						
慢性的経過をたどり、生涯にわたって生活のコントロールを必要とする対象と、その家族への看護、患者教育支援について事例を通して学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期の看護の特徴をふまえ、患者指導を含めた個別性のある看護計画を立案することができる。 2. ロールプレイングを行うことで、患者教育支援における意図的なコミュニケーションを考えることができる。 						
授業計画・授業内容						
全15回の授業形式は、講義、個人ワーク、グループワーク、演習(ロールプレイング)で構成する。						
第1回	ガイダンス	紙上事例・グループ(8グループ)・担当教員の発表 ビデオ学習				
		「糖尿病教育入院患者の看護事例」「成人糖尿病患者のセルフケア能力を育成する看護指導技術」				
第2回	紙上事例の展開	に必要な事前学習(個人ワーク)				
第3回	紙上事例の展開	に必要な事前学習(個人ワーク)				
第4回	紙上事例の展開	に必要な事前学習(個人ワーク)	事前学習の提出			
第5回	看護過程の展開	情報収集、情報の分析・解釈、全体像まで(個人ワーク)				
第6回	看護過程の展開	情報収集、情報の分析・解釈、全体像まで(個人ワーク)				
第7回	看護過程の展開	情報収集、情報の分析・解釈、全体像まで(個人ワーク)				
第8回	看護過程の展開	情報収集、情報の分析・解釈、全体像まで(個人ワーク)				
第9回	看護過程の展開	関連付け・看護問題の明確化(看護診断)・看護計画立案、指導場面のロールプレイング(グループワーク)				
第10回	看護過程の展開	関連付け・看護問題の明確化(看護診断)・看護計画立案、指導場面のロールプレイング(グループワーク)				
第11回	看護過程の展開	関連付け・看護問題の明確化(看護診断)・看護計画立案、指導場面のロールプレイング(グループワーク)				
第12回	発表準備	(印刷・配布・発表練習)(グループワーク)				
第13回	ロールプレイング	(指導場面の発表) 発表時間:1グループ 15分×8G、 質疑応答 まとめ:指導場面のロールプレイングを終えてを記入し提出				
第14回		第13回に引き続き、ロールプレイングによる発表				
第15回		総まとめ				
評価方法						
紙上事例展開 評価表 100%						
使用教科書						
小松浩子他, 成人看護学総論・成人看護学①, 第16版, 医学書院, 2020年 有田清子他, 基礎看護技術Ⅰ・基礎看護学②, 第16版, 医学書院, 2020年						
参考書						
特になし						
その他						
*グループごとに担当教員が決められているので事前学習や記録は担当教員に提出し指導を受ける。 *全体像までの指導回数は3回までとし、1回の指導時間は20分程度を目安に行う。						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		成人看護学援助論Ⅱ （呼吸器・循環器）	オムニバス形式	2	1（30）	通年
授業概要						
呼吸器・循環器の障害を持つ成人期の対象を総合的に捉え看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。						
到達目標						
（呼吸器） 1. 呼吸器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。 2. 呼吸器障害を持つ患者の看護について理解できる。						
（循環器） 1. 循環器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。 2. 循環器障害を持つ患者の看護について理解できる。						
授業計画・授業内容						
全 15 回の授業は、第 1～7 回（循環器）を笹田麗、第 8～14 回（呼吸器）長崎菜穂他が担当し、第 15 回を総まとめとする。						
（循環器）						
第 1 回 循環器疾患の看護の役割						
第 2 回 症状別の看護（胸痛・動悸など）						
第 3 回 カテ等の検査・治療をうける患者の看護						
第 4 回 心不全を掘り下げる（他、大動脈疾患・不整脈）						
第 5 回 心筋梗塞疾患の事例 その他						
第 6 回 まとめの問題 IABP・心音の聞き方						
第 7 回 心音聴取 CVP などまとめ						
（呼吸器）						
第 8 回 疾患の経過と看護（急性期・回復期・慢性期・終末期）						
第 9 回 症状に対する看護						
第 10 回 疾患をもつ患者の看護 肺炎・結核・気管支喘息						
第 11 回 疾患をもつ患者の看護 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 吸入療法・酸素療法を受ける患者の看護						
（呼吸器）						
第 12 回 疾患をもつ患者の看護（検査 ドレナージ 手術前の看護）						
第 13 回 疾患をもつ患者の看護（手術後 肺血栓症 急性呼吸窮迫症候群等 肺がん等）						
第 14 回 疾患をもつ患者の看護（自然気胸 睡眠時無呼吸症候群等）						
（呼吸器・循環器）						
第 15 回 総まとめ						
評価方法						
（呼吸器）授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
（循環器）授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
（呼吸器）浅野浩一郎著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 第 15 版，医学書院，2020						
（循環器）松田 直樹著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 第 15 版，医学書院，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野Ⅱ		成人看護学援助論Ⅲ (内分泌・消化器)	北村 綾・藤田 加奈	2	1 (30)	通年
授業概要						
内分泌・消化器の障害を持つ成人期の対象を総合的に捉え看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。						
到達目標						
(内分泌)						
1. 内分泌・代謝疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。						
2. 内分泌・代謝疾患を持つ患者の看護について理解できる。						
(消化器)						
1. 消化器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。						
2. 消化器疾患を持つ患者の看護について理解できる。						
授業計画・授業内容						
全 15 回 (30H) の授業は、第 1～5 回 (内分泌) を北村 綾、第 6～15 回 (消化器) を藤田加奈が担当する。						
(内分泌)						
第 1 回	内分泌疾患 下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎疾患看護					
第 2 回	糖尿病 合併症看護について					
第 3 回	糖尿病 食事療法 運動療法 自己血糖測定実施					
第 4 回	糖尿病 薬物療法 インスリン療法手技の実演					
第 5 回	代謝疾患の看護 総まとめ					
(消化器)						
第 6 回	医療の動向と看護消化器疾患の特徴 消化器看護の役割 消化器の構造と機能					
第 7 回	症状と病態生理 (おくび・腹痛・下痢) 直腸・肛門の構造と機能 胆・肝・膵の働き					
第 8 回	胃・十二指腸検査 疾患の理解と看護 (食道・胃)					
第 9 回	胃・食道疾患看護 大腸疾患看護					
第 10 回	虫垂炎 大腸癌 ストマ					
第 11 回	ストマ 栄養補助食品試食 肝炎 大腸癌					
第 12 回	胆のう、膵臓治療処置を受ける患者の看護					
第 13 回	経管栄養 手術療法を受ける患者の看護					
第 14 回	これまでの講義の復習					
第 15 回	総まとめ					
評価方法						
(内分泌) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
(消化器) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
(内分泌) 黒江 ゆり子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 第 15 版, 医学書院, 2020						
(消化器) 松南川 雅子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 第 15 版, 医学書院, 2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		成人看護学援助論Ⅳ （脳神経・運動器）	非常勤講師・笹井誠也	2	1（30）	通年
授業概要						
脳神経・運動器の障害を持つ成人期の対象を総合的に捉え看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。						
到達目標						
（脳神経）						
1. 脳神経疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。						
2. 脳神経疾患を持つ患者の看護について理解できる。						
（運動器）						
1. 運動器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。						
2. 運動器疾患を持つ患者の看護について理解できる。						
授業計画・授業内容						
全 15 回（30H）の授業は、第 1～7 回（脳神経）を非常勤講師が担当し、第 8～14 回（運動器）を笹井誠也が担当し、第 15 回は総まとめとする。						
（脳神経）						
第 1 回 疾病の経過と看護 p 228～242						
第 2 回 B. 症状・障害を持つ患者の看護①～⑥途中まで p 242～272						
第 3 回 症状・障害をもつ患者の看護 p 275～306						
第 4 回 クモ膜下出血・脳腫瘍・下垂体腺腫患者の看護開頭術を受ける患者の看護						
第 5 回 脳梗塞・頭部外傷 筋ジストロフィー疾患の管理						
第 6 回 P 355～371 ALS の看護～字幕円の看護まで						
第 7 回 意識レベル・運動レベル評価実習 抑制の実習						
（運動器）						
第 8 回 運動器疾患をもつ患者の看護						
第 9 回 骨折の看護 各種の骨折（下肢）						
第 10 回 各種の骨折（上肢） 神経麻痺（上肢） 関節リウマチ						
第 11 回 人口関節について（THA TKA）						
第 12 回 CPM・IPC ギブス・カットなどの演習						
第 13 回 脊椎疾患と看護について（頸椎、腰椎）						
第 14 回 脊椎疾患と看護について						
（脳神経）（運動器）						
第 15 回 総まとめ						
評価方法						
（神経）授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
（運動器）授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
（脳神経）						
井手隆文著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経 第 15 版，医学書院，2020						
（運動器）						
田中栄著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 第 15 版，医学書院，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		成人看護学援助論Ⅴ（血液造血・腎泌尿・感覚器・外科的治療・患者/看護師関係）	オムニバス形式	2	1（30）	通年

授業概要

血液・造血器・腎泌尿器・生殖器・感覚器の障害を持つ対象及び外科的治療を受ける成人期の対象を総合的に捉え、看護を実践するための基本的知識・技術・態度を学ぶ。
成人患者の理解と看護者との関係成立について学ぶ。

到達目標

（血液・造血器）

1. 血液成分、血球の性状と機能が理解できる。
2. 貧血の種類と病態・診断・治療・看護が理解できる。
3. 輸血を適正かつ安全に実施するための基本的な知識が習得できる。

（腎泌尿器）

1. 腎泌尿器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。
2. 腎泌尿器疾患を持つ患者の看護について理解できる。

（感覚器）

1. 皮膚の構造・機能について理解できる。
2. 褥瘡のメカニズムと看護について理解できる。

（外科的治療）

1. 周手術期看護の概念について学び、手術を受ける患者の看護について理解できる。
2. 手術前・中・後の看護について理解できる。

（成人患者の理解と看護者との関係成立の過程）

1. 健康障害が成人に及ぼす影響から、看護の必要性を理解でき明確に表現することができる。
2. 既習の学習や実習での実際の患者との関わりを振り返り、看護者としての関係成立について何が大切であるか自分の言葉で表現することができる。

授業計画・授業内容

全15回の授業は、第1～2回（血液・造血器）蛭名千昌、第3～8回（腎泌尿器）非常勤講師、第9～10回（感覚器）非常勤講師、第11～12回（外科的治療）森田早苗、第13～15回（患者/看護師関係）太田希子が担当する。

（血液・造血器）

- 第1回 血球の性状と機能、貧血の病態と看護
第2回 輸血を適正かつ安全に実施する方法と看護

（腎泌尿器）

- 第3回 腎泌尿器疾患 看護概論 腎泌尿器の機能・メカニズム
第4回 透析看護について 尿路変更術患者の看護
第5回 浮腫がある患者の看護 腎泌尿器疾患別看護についてのグループワーク
第6回 第5回に引き続きグループワーク
第7回 第6回に引き続きグループワーク
第8回 グループワーク発表 総まとめ

（感覚器）

- 第9回 皮膚の機能・看護 褥瘡のメカニズムと看護
第10回 褥瘡のメカニズム

（外科的治療）

- 第11回 周手術期看護の概論 手術前患者の看護
第12回 手術の当日の看護 手術後患者の看護

(成人患者の理解と看護者との関係成立の過程)

- 第 13 回 患者・看護師関係について講義、授業計画の説明、テーマの発表、自己の考えをまとめる。
第 14 回 リズム室で発表、「成人看護成立の過程」授業のまとめ。
第 15 回 リズム室で発表、「成人看護成立の過程」授業のまとめ。

評価方法

(腎泌尿器) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格

(成人患者の理解と看護者との関係成立の過程)

個人発表にて評価 ※以下の視点で評価します。

- 評価基準
1. 健康障害が成人に与える影響が述べられているか (発達段階・個別性が考慮された内容 (20 点))
 2. 健康障害がある方にどのような看護が必要か述べられているか (20 点)
 3. 既習の学習内容と実際の体験が結びつき、述べられているか (20 点)
 4. 自己の経験から、現在の看護観が明確に述べられているか (20 点)
 5. 看護者としての自己の関わりを客観的に述べることができ、自己の課題が見出されているか (20 点)

※それぞれの項目について 5 点刻みで評価。例) 0 点、5 点、10 点、15 点、20 点

使用教科書

(血液・造血器)

飯野京子他著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4], 血液・造血器 第 15 版, 医学書院, 2020

(腎泌尿器)

今井 亜矢子, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8], 腎・泌尿器 第 15 版, 医学書院, 2020

(感覚器)

渡辺 晋一著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12], 皮膚 第 15 版, 医学書院, 2020

(外科的治療)

矢永勝彦著, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 第 11 版, 医学書院, 2020

(成人患者の理解と看護者との関係成立の過程)

小松浩子他, 成人看護学総論 成人看護学①, 第 15 版, 医学書院, 2020

参考書

特になし

その他

特になし

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		老年看護学概論	中井 幾子	1	1 (30)	前期
授業概要						
<p>老年期における対象の身体的・精神的・社会的特徴と我が国における高齢社会の特徴を理解し、老年看護の目的、機能、役割について学習する。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期を生きる人々の健康について理解できる。 2. 加齢過程に対する社会文化的影響について理解できる。 3. 高齢者における社会保障について理解できる。 4. 加齢に伴う変化の特徴、身体的・精神的・社会的機能の変化について理解し、述べることができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>全 15 回の授業は中井幾子が担当し、授業の形式は、第 1～4 回までは講義、第 5～14 回まではグループワーク（発表も含む）、第 15 回は、総まとめとする。</p>						
第 1 回		高齢者とはどういう人か (未知なる老い、新しい老化のとらえ方、発達理論と発達課題)				
第 2 回		グローバルな観点からの高齢問題 (超高齢社会の統計的輪郭、平均寿命からみた超高齢社会、高齢者の健康状態)				
第 3 回		高齢化が社会生活に及ぼす影響、高齢化に伴う社会文化的影響 (高齢者の暮らし、高齢社会における権利擁護、倫理的課題)				
第 4 回		高齢者における社会保障、次回グループワーク説明 (高齢社会における保健・医療・福祉の動向、グループワークの目的・目標・学習方法説明)				
第 5 回		加齢に伴う変化の特徴、身体的・精神的・社会的機能の変化：グループワーク実施 (内臓機能の変化、運動・体力の変化、感覚・知覚の変化、心理・精神機能の変化、社会的変化)				
第 6 回		第 5 回に引き続き、グループワーク実施				
第 7 回		第 6 回に引き続き、グループワーク実施				
第 8 回		第 7 回に引き続き、グループワーク実施				
第 9 回		第 8 回に引き続き、グループワーク実施				
第 10 回		第 9 回に引き続き、グループワーク実施				
第 11 回		第 10 回に引き続き、グループワーク実施				
第 12 回		第 11 回 に引き続き、グループワーク実施				
第 13 回		加齢に伴う変化の特徴、身体的・精神的・社会的機能の変化：グループワーク発表				
第 14 回		第 13 回に引き続き、グループワーク発表				
第 15 回		総まとめ				
評価方法						
<p>グループワーク発表後のレポートで評価 20%、筆記試験で 80%、合計 100%とする。60 点以上を合格、60 点未満は再度筆記試験を実施</p>						
使用教科書						
<p>北川公子著他、老年看護学、医学書院、2018 鳥羽研二著他、老年看護病態・疾患論、医学書院、2018</p>						
参考書						
<p>岡庭豊著、なぜ？どうして？老年看護第 6 版、メディックメディア、2018 山田律子、井出訓著、生活機能から見た老年看護過程、医学書院、2017</p>						
その他						
<p>グループワークでは発表までに各グループ毎に図書室など利用し、学習する P C ・電子黒板使用。グループワーク資料作成に A3 コピー用紙使用</p>						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		老年看護学援助論Ⅰ	中井 幾子	1	1 (30)	後期
授業概要						
老年期にある対象の日常生活について理解し、その援助方法について学習する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護援助の基本と展開方法について理解できる。 2. 身体的変化と生活リズムの回復に焦点をあてたアセスメントとケア技法について理解できる。 3. 自立生活の拡大に焦点をあてたアセスメントとケア技法について理解できる。 4. 高齢者の主要症状に焦点をあてたアセスメントとケア技法について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
全15回の授業は中井が担当し、授業の形式は、第1～5回まで講義、第6回目は演習、第7～14回目までは講義、第15回目は、総まとめとする。						
第1回		老年看護援助の基本と看護展開方法 (老年看護の基盤、老年看護に携わる者の責務、看護計画の展開方法)				
第2回		身体の加齢変化のアセスメント (体と身体、フィジカルアセスメント)				
第3回		安全かつ快適に食事をするためのアセスメントと援助方法 (老年期の栄養、加齢による摂取・嚥下機能の変化、食生活のアセスメント、食生活を豊かにするための看護ケア)				
第4回		第3回に引き続き、安全かつ快適に食事をするためのアセスメントと援助方法				
第5回		排泄動作のアセスメントと援助方法 (加齢に伴う排尿の変調、加齢に伴う排便の変調、排便の以上に対するアセスメントと看護ケア)				
第6回		第5回に引き続き、排泄動作のアセスメントと援助方法 (排泄ケア演習、排泄体験・レポート)				
第7回		清潔のアセスメントと援助方法 (老年期の清潔、清潔のアセスメント、入浴・清拭・陰部洗浄)				
第8回		運動・休息・睡眠の変調のアセスメントと援助方法 (高齢者にとっての活動、運動機能の変化と生活への影響、生活リズムを整える看護) (高齢者の睡眠の特徴、睡眠リズムの変化と生活への影響、睡眠リズムを整える看護)				
第9回		コミュニケーション障害のアセスメントと援助方法 (高齢者のコミュニケーションの特徴、失語症・構音障害を持つ高齢者とのコミュニケーション方法)				
第10回		日常動作能力のアセスメントと援助方法 (高齢者の日常生活動作、基本動作の環境理解と看護)				
第11回		転倒予防のアセスメントと援助方法 (転倒予防のアセスメントとケア方法、転倒事故防止対策の看護)				
第12回		褥瘡のアセスメントと援助方法 (高齢者の皮膚の特徴、褥瘡の原因と好発部位、褥瘡の評価)				
第13回		掻痒のアセスメントと援助方法 (掻痒の原因、老人性皮膚掻痒賞の症状と看護、疥癬の特徴・治療と看護)				
第14回		脱水のアセスメントと援助方法 (脱水の原因、看護の要点と脱水防止策の看護)				
第15回		総まとめ				
評価方法						
筆記試験で100%とする。60点以上を合格、60点未満は再度筆記試験を実施						
使用教科書						
北川公子著他、老年看護学、医学書院、2018 鳥羽研二著他、老年看護病態・疾患論、医学書院、2018						
参考書						
岡庭豊著、なぜ？どうして？老年看護第6版、メディックメディア、2018 山田律子・井出訓著、生活機能から見た老年看護過程、医学書院、2017						
その他						
PC・電子黒板使用 排泄ケア演習でオムツ使用						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		老年看護学援助論Ⅱ	笹木郁哉・中井幾子	2	2（45）	後期
授業概要						
1. 高齢者の主な疾患に対しての看護と日常生活の適応に向けた援助について考える能力を得る。 2. 健康障害をもった老年期の対象と健康問題を総合的に理解し、高齢者とその家族の看護について学ぶ。						
到達目標						
1. 加齢に伴う特徴を踏まえて老年期の対象を理解できる。 2. 高齢者疾患の特徴を理解し看護する上での留意点が理解できる。 3. 加齢に伴う健康上の問題を把握し、生活機能の維持・向上を促す援助を考えることができる。 4. 老年の対象の理解と老年看護の視点を持ち、看護計画を立案することができる。						
授業計画・授業内容						
全18回の授業は、第1～18回までを笹木郁也が担当、第19～23回（事例展開）は中井幾子が担当し、授業の形式は、講義、グループワークで構成する。						
（高齢者の代表的な疾患と看護：脳疾患・心疾患・呼吸器疾患・感染症）						
第1回		脳の構造と機能				
第2回		脳梗塞・脳出血・慢性硬膜下血腫・クモ膜下出血・パーキンソン病				
第3回		狭心症・心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症				
第4回		心不全・不整脈				
第5回		肺炎・誤嚥性肺炎				
第6回		閉塞性肺疾患・肺線維症（間質性肺炎）・肺がん				
第7回		インフルエンザ・感染性胃腸炎（ノロ） 感染対策と看護				
第8回		うつ 高齢者の特徴及び看護/せん妄 リスク要因と看護				
第9回		認知症の中核症状・BPSD 認知症をきたす疾患				
第10回		認知症の看護				
（高齢者の代表的な疾患と看護：消化器疾患・腎泌尿器疾患・運動器疾患・終末期看護）						
第11回		逆流性食道炎・胃十二指腸潰瘍				
第12回		便秘・大腸憩室症・腸閉塞（イレウス）				
第13回		腎不全・尿路感染症・前立腺肥大				
第14回		大腿骨頸部骨折・変形性膝関節症				
第15回		腰部脊柱管狭窄症・骨粗しょう症				
第16回		終末期看護 ・エンドオブライフケア ・高齢者の末期段階における身体的変化				
第17回		終末期看護 ・末期段階の苦痛を緩和するケア ・家族への支援				
第18回		総まとめ（1H）				
（看護過程の展開）						
第19回		紙上事例展開：脳梗塞患（慢性期）の事例を用いて、アセスメントし個々に看護計画を立案する。				
第20回		第1回に引き続き、紙上事例展開：脳梗塞患（慢性期）の事例を用いて、アセスメントし個々に看護計画を立案する。				
第21回		第2回に引き続き、紙上事例展開：脳梗塞患（慢性期）の事例を用いて、アセスメントし個々に看護計画を立案する。				
第22回		第3回に引き続き、紙上事例展開：脳梗塞患（慢性期）の事例を用いて、アセスメントし個々に看護計画を立案する。				
第23回		第4回に引き続き、紙上事例展開：脳梗塞患（慢性期）の事例を用いて、アセスメントし個々に看護計画を立案する。				

評価方法

1. 筆記試験は、100 点満点で 60 点以上を合格とする（50%）
2. 事例展開提出 評価表で評価 100 点満点で 60 点以上を合格とする（50%）

使用教科書

鳥羽研二著他，系統看護学講座・専門分野Ⅱ・「老年看護病態・疾患論」（第 5 版），医学書院，2020
北川公子著他，系統看護学講座・専門分野Ⅱ・「老年看護学」（第 9 版），医学書院，2020

参考書

特になし

その他

電子黒板使用など

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		小児看護学概論	高橋 英恵	2	1(30)	前期
授業概要						
小児看護に活用される理論・概念をもとに、成長発達各期の特徴を理解するとともに、現代の子供と家族の概要を捉えながら、小児看護の役割と課題について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象としての子どもを理解することができる。 2. 小児医療や小児看護の変遷について理解することができる。 3. 子どもの権利を理解することができる。 4. 子どもを取り巻く環境および子どもの生活について理解することができる。 5. 子どもにとっての家族について考えることができる。 						
授業計画・授業内容						
授業形式は、講義、グループワーク、演習で構成する						
第 1 回 子どものイメージとは（子どものこと好きですか？） 第 2 回 子どもの成長発達、小児看護で用いられる理論 第 3 回 成長・発達の原則、何が成長・発達に影響するのか 第 4 回 新生児期 生まれたての赤ちゃんはどうなっているのか？ 第 5 回 乳児期 人を信じるためにできることは？ 第 6 回 子どもと食事 離乳食の進め方 第 7 回 幼児期 よく遊ぶことがなぜ大切なのか 第 8 回 学童期 大人からではなく子どもから学ぶとは？ 第 9 回 思春期・青年期 自分は一体なにものなの？ 第 10 回 家族 子どもにとっての家族とは？ 第 11 回 予防接種 予防接種って効くの？ 第 12 回 小児看護における倫理と子どもの権利 第 13 回 小児看護の役割と活動 第 14 回 小児の発達のまとめ 第 15 回 総まとめ						
評価方法						
試験 100% 60 点以上を合格とし、60 点未満は再試を実施する						
使用教科書						
奈良間美保他，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論，第 13 版，医学書院，2018						
参考書						
佐々木正美，子どもへのまなざし，福音館書店，2009 中野綾美他，ナーシング・グラフィカ，小児看護学①，小児の発達と看護，第 6 版，メディカ出版，2019，						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		小児看護学援助論Ⅰ	吉村英敦・齋田吉伯	2	1（15）	後期
授業概要						
対象におこりやすい健康障害について学ぶ。						
到達目標						
<p>（血液・造血器疾患、腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の病態生理、生じうる症状の特徴が理解できる。 2. 小児期における特有な疾患を持つ子どもとその家族への看護が理解できる。 3. 染色体異常の子どもが生まれた家族への援助について理解できる。 4. 小児期における特有な疾患を持つ子どもとその家族への看護が理解できる。 <p>（感染症、循環器疾患）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予防接種の種類と、その接種方法について理解できる。 2. 心疾患を持つ子どもとその家族への看護が理解できる。 						
授業計画・授業内容						
全8回の授業は、第1～4回を吉村英敦、第5～7回を齋田吉伯が担当し、第8回を総まとめとする。						
<p>（血液・造血器、腎・泌尿器、生殖器、代謝性疾患、内分泌疾患）</p> <p>第1回 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と新生児の疾患と看護</p> <p>第2回 代謝性疾患、内分泌疾患・免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患、血液・造血器疾患と看護</p> <p>第3回 悪性新生物、腎・泌尿器および生殖器疾患、神経疾患、運動器疾患と看護</p> <p>第4回 皮膚疾患、目疾患、耳鼻咽喉疾患、精神疾患と看護</p> <p>（感染症、循環器）</p> <p>第5回 感染症と看護</p> <p>第6回 呼吸器疾患と看護</p> <p>第7回 循環器疾患、消化器疾患と看護</p> <p>第8回 総まとめ</p>						
評価方法						
<p>授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は60点以上で合格</p> <p>※筆記試験は100点満点中、吉村英敦50点、齋田吉伯50点の配分とする</p>						
使用教科書						
奈良間美保著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版、医学書院、2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野Ⅱ		小児看護学援助論Ⅱ(A)	舟口信子・高橋英恵	2	1(30)	後期
授業概要						
子どもの健康を保持・増進するための援助および日常的な健康問題に対しての看護について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害が子どもの成長・発達や子どもと家族の生活に及ぼす影響について説明できる。 2. 健康障害を抱えた子ども・家族がおかれた状況に応じた看護援助について理解できる。 3. 健康障害を持つ子どもに対する系統的なアセスメントを理解できる。 						
授業計画・授業内容						
全15回の授業は、第1回目～7回目までを舟口信子が担当、第8回～14回目は高橋英恵が担当し、第15回目は総まとめとする。						
第1回	病気・障害を持つ子供と家族の看護 (病気・障害が子どもと家族に与える影響・子どもの健康問題)					
第2回	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 (入院中の子どもと家族看護、外来における子どもと家族の看護)					
第3回	子どもの状況(環境)に特徴づけられる (在宅療養中の子どもと家族の看護、災害時の子どもと家族の看護)					
第4回	子どもにおける疾病の経過と看護 (慢性期にある子どもと家族の看護、急性期にある子どもと家族の看護)					
第5回	子どもにおける疾病の経過と看護 (周手術期の子どもと家族の看護、終末期の子どもと家族の看護)					
第6回	子どものアセスメント (アセスメントに必要な技術)					
第7回	子どものアセスメント (身体的アセスメント)					
第8回	症状を示す子どもの看護 (不きげん、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック)					
第9回	症状を示す子どもの看護 (意識障害、けいれん、発熱、嘔吐、下痢、便秘)					
第10回	症状を示す子どもの看護 (脱水、浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸)					
第11回	検査・処置を受ける子どもの看護 (検査・処置総論、薬物動態と薬用量の決定、検査・処置各論)					
第12回	検査・処置を受ける子どもの看護 (検査・処置各論)					
第13回	障害のある子どもの看護 (障がいのとらえ方、障がいのある子どもと家族の特徴、障がいのある子どもと家族の社会的支援)					
第14回	子どもの虐待と看護 (子どもの虐待の現状と対策の経緯、子どもの虐待とは、リスク要因と発生予防、早期発見、子どもの虐待に特徴的にみられる状況、求められるケア)					
第15回	総まとめ					
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価100%(舟口信子50%、高橋英恵50%)、試験は60点以上で合格						
使用教科書						
奈良間美保著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第13版、医学書院、2018						
参考書						
中野綾美著、ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① 第5版、メディカ出版、2015						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		小児看護学援助論Ⅱ（B）	オムニバス形式	2	1（30）	後期
授業概要						
疾病、障害が小児、家族に及ぼす影響を理解し、対象の状況に応じた適切な看護について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長発達と健康状態について、正常と異常のアセスメントに必要な知識を身につける。 2. 小児期に多い疾患について、特有な症状、疾患発生のメカニズム、検査方法および治療方法に関する基本的な知識を身につける。 3. 疾患別の看護援助の要点が理解できる。 						
授業計画・授業内容						
全 15 回の授業は、第 1～6 回は藤原信、第 7～11 回を山口茂子、第 12～15 回を高橋英恵が担当する。						
第 1 回	染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護 （ダウン症候群のもつ子どもの看護，18 トリソミー症候群の子どもの看護） 新生児の看護 （低出生体重児の看護，新生児仮死がみとめられる子どもの看護，高ビリルビン血症の新生児の看護）					
第 2 回	代謝性疾患と看護 （1 型糖尿病をもつ子どもの看護，2 型糖尿病をもつ子どもの看護） 内分泌疾患と看護 （下垂体疾患をもつ子どもの看護，先天性副腎過形成症の子どもの看護，甲状腺疾患の子どもの看護）					
第 3 回	免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護 （食物アレルギーの子どもの看護，気管支喘息の子どもの看護，若年性特発性関節炎の子どもの看護）					
第 4 回	感染症と看護 （麻疹の子どもの看護，風疹の子どもの看護，流行性耳下腺炎の子どもの看護，水痘の子どもの看護，髄膜炎の子どもの看護・百日咳の子どもの看護，ブドウ球菌熱傷様皮膚症候群の子どもの看護，結核の子どもの看護，急性灰白髄炎の子どもの看護）					
第 5 回	呼吸器疾患と看護 （かぜ症候群の子どもの看護，肺炎の子どもの看護） 循環器疾患と看護 （ファロー四徴症の子どもの看護，川崎病の子どもの看護）					
第 6 回	消化器疾患と看護 （形態異常のある疾患の子どもの看護，その他の消化器疾患の子どもの看護）					
第 7 回	自己紹介、悪性新生物と看護， （白血病の子どもの看護，神経芽腫の子どもの看護）					
第 8 回	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 （ネフローゼ症候群の子どもの看護，溶連菌感染症後急性糸球体腎炎の子どもの看護，急性腎不全の子どもの看護，尿路感染症の子どもの看護，水腎症の子どもの看護，膀胱尿管逆流の子どもの看護，尿道下裂の子どもの看護）					
第 9 回	神経疾患と看護 （けいれんのある子どもの看護，脳性麻痺の子どもの看護，水腎症・二分脊椎の子どもの看護） 運動器疾患と看護 （牽引・ギプス・手術を受ける子どもの看護） （先天性股関節脱臼の子どもの看護，骨折した子どもの看護）					
第 10 回	皮膚疾患と看護 （アトピー性皮膚炎の子どもの看護） 眼疾患と看護 （眼科的検査を受ける子どもの看護，斜視の手術をうける子どもの看護） 耳鼻咽喉科疾患と看護 （中耳炎の子どもの看護，扁桃摘出術を受ける子どもの看護）					

第 11 回	精神疾患と看護 (不登校となった神経症の子どもの看護, 注意欠如・多動症および自閉スペクトラム症の子どもの看護) まとめ
第 12 回	小児期の特有な疾患の事例を用いてアセスメントし個々に看護展開する
第 13 回	看護過程の展開①
第 14 回	看護過程の展開②
第 15 回	看護過程の展開③
評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験は、100 点満点で 60 点以上を合格とする (50%) 事例展開提出 評価表で評価 100 点満点で 60 点以上を合格とする (50%) 	
使用教科書	
奈良間美保著, 系統看護学講座専門分野Ⅱ, 小児看護学[1], 小児看護学概論, 小児臨床看護総論, 第 14 版, 医学書院, 2020 奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 小児看護学[2], 小児臨床看護各論, 第 14 版, 医学書院, 2020	
参考書	
細谷亮太訳, 君と白血病 この 1 日を貴重な 1 日に, 医学書院, 1982, チャールズ・M・シュルツ著, 細谷亮太訳, チャーリー・ブラウンなぜなんだい?ともだちがおもい病気になったとき, 岩崎書店, 1991	
その他	
既習学科目, 特に小児看護学概論(成長・発達), 小児臨床看護総論(症状を示す子どもの看護), 小児臨床看護各論(子どもの疾患)について事前学習しておくことを薦める。 事前に資料配布予定、授業は PC スライド使用予定。	

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		母性看護学概論	笠谷 優子	2	1（15）	前期
授業概要						
母性看護の概念、母性看護の対象・機能・役割と生殖に対する学びを深めると共に、母子保健統計を視点とした母性看護について理解する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性の概念と特性が理解できる。 2. 母性看護の意義、目的、役割が理解できる。 3. 母性保健の現状を捉え、母性保健の向上について理解できる。 4. 母子機能に影響を及ぼす環境について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回 母性とは 第 2 回 女性の一生と母性 現代女性のライフサイクル 母性関係と家族発達 第 3 回 母性看護のあり方 母性看護における倫理 第 4 回 生命倫理と看護理論 母性看護における安全自己防衛 第 5 回 近代社会と母性看護 母子健康統計の動向 第 6 回 母性看護に関する組織と法律、施策 第 7 回 母性看護の場と職種 母性看護の対象を取り巻く環境 第 8 回 総まとめ						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
森恵美著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 第 13 版，医学書院，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野Ⅱ		母性看護学援助論Ⅰ	四十澤美行・小葉松洋子	2	1(30)	前期
授業概要						
ライフサイクルにおける対象の理解、ライフステージ各期の看護について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルの中での母性看護の対象について理解できる。 2. 健全な母性への準備と健康な家庭作りへの看護について理解できる。 3. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠期からの女性・家族への支援について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>授業は、第1～3回は小葉松洋子が担当、第4～15回は四十澤美行が担当する。</p> <p>(母性看護の対象理解：女性生殖系)</p> <p>第1回 症状とその病態生理 診察・検査と治療・処置</p> <p>第2回 女性生殖器 治療・処置 性分化疾患 外陰・膣・子宮疾患</p> <p>第3回 子宮・卵管・卵巣・乳房の疾患 機能性疾患 感染症</p> <p>(母性看護の対象理解：ライフサイクル各期の特徴と看護)</p> <p>第4回 生殖器の形態・機能</p> <p>第5回 妊娠と胎児の性分化</p> <p>第6回 女性のライフサイクルと家族、母性の発達・成熟・継承</p> <p>第7回 ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性、思春期の健康と看護</p> <p>第8回 思春期女性への看護の視点、成熟期の健康と看護、更年期の健康と看護</p> <p>第9回 老年期の健康と看護</p> <p>第10回 家族計画、性感染症とその予防</p> <p>第11回 HIVに感染した女性に対する看護、人工妊娠中絶と看護</p> <p>第12回 喫煙女性の健康と看護、性暴力を受けた女性に対する看護</p> <p>第13回 児童虐待と看護、国際化社会と看護</p> <p>第14回 遺伝相談</p> <p>第15回 不妊治療と看護 総まとめ</p> <p>※授業の進捗については変更する可能性がある。</p>						
評価方法						
<p>(四十澤美行)</p> <p>授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は60点以上で合格</p>						
使用教科書						
<p>森恵美著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論, 第13版, 医学書院, 2020</p> <p>森恵美著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論, 第13版, 医学書院, 2020</p> <p>末岡浩著, 系統看護学講座 成人看護学[9] 女性生殖器 第15版, 医学書院, 2020</p>						
参考書						
<p>(四十澤美行)</p> <p>必要時、プリントを配布する</p>						
その他						
<p>(四十澤美行)</p> <p>授業終了後復習をする事</p>						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		母性看護学援助論Ⅱ	オムニバス形式	2	2（60）	通年
授業概要						
周産期の対象の理解、看護ケアについて学び、対象に必要な看護を実践する能力を養う。						
到達目標						
1. 妊娠期の健康や健康逸脱について理解し、その援助方法が理解できる。 2. 産婦及び家族の健康や健康逸脱について理解し、その援助方法が理解できる。 3. 産褥期の健康や健康逸脱について理解し、その援助方法が理解できる。 4. 周産期に起こりやすい異常の病態、最近の治療、検査が理解できる。						
授業計画・授業内容						
授業は、第1～23回は四十澤美行が担当、第24～26回は篠村順子が担当、第27～30回は長清美が担当する。						
(妊娠期・分娩期・産褥期の看護)						
第1回		妊娠の生理、胎児の発育				
第2回		胎盤と羊水の生理、胎児の生理、胎児と薬剤・放射線・環境汚染物質				
第3回		母体の生理的変化・妊娠と胎児のアセスメント				
第4回		胎児の触知、胎位、胎向、健康状態、妊娠経過の診断				
第5回		妊娠・胎児の身体的健康状態のアセスメント、妊婦が受ける母子保健サービス				
第6回		妊婦の保健指導の実際				
第7回		親になるための準備教育、分娩とは				
第8回		演習 レオポルド触診法・児心音聴取・骨盤外計測				
第9回		分娩の3要素、分娩の機序、分娩の進行と産婦の身体的変化				
第10回		産婦の身体的変化、産婦と胎児の健康状態のアセスメント				
第11回		産婦と家族の看護				
第12回		分娩期の看護の実際、分娩補助動作、呼吸法、出産直後の新生児の看護				
第13回		産褥経過、褥婦のアセスメント				
第14回		褥婦と家族の看護				
第15回		総まとめ				
(異常)						
第16回		ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症				
第17回		妊娠疾患、多胎妊娠、妊娠持続期間の異常				
第18回		異所性妊娠、ハイリスク妊婦の看護				
第19回		産道の異常、娩出力異常、胎児の異常による分娩障害				
(母性医学)						
第20回		胎児の付属物の異常、胎児機能不全、分娩時の損傷				
第21回		分娩第3期および分娩直後の異常、分娩時異常出血、産科処置と産科手術				
第22回		異常のある産婦の看護、産褥期の異常と看護				
第23回		精神障害合併妊婦と家族の看護				
(新生児の看護)						
第24回		新生児の生理的特徴				
第25回		新生児期における母性看護の役割 新生児看護の実際				
第26回		新生児に起こりやすい異常と看護				
(看護過程の展開：事例)						
第27回		妊娠期から産褥期の事例展開（個人ワーク）				
第28回		妊娠期から産褥期の事例展開（個人ワーク）				
第29回		妊娠期から産褥期の事例展開（個人ワーク）				
第30回		産褥期の看護計画立案（個人ワーク）				

評価方法

(四十澤美行)

授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格

(長清美)

内容を評価表で評価し 60 点以上で合格とする

使用教科書

森恵美著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 第 13 版, 医学書院, 2020

参考書

(四十澤美行)

必要時、プリントを配布する

(長清美)

井上裕美他, 病気がみえる・vol. 10・産科, メディックメディア, 第 3 版, 2016

有森直子他, アセスメントスキルを習得し質の高い周産期ケアを追求する・母性看護学Ⅱ・周産期各論, 医歯薬出版株式会社, 第 1 版, 2015

その他

(四十澤美行)

授業後に復習をすること

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		精神看護学概論	土屋 佑太	1	1 (30)	後期
授業概要						
健康な人を対象とした心の健康の維持増進を図るために必要な援助を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神的健康とは何かを理解し、地域における精神保健、精神看護の役割について理解できる。 2. 学校や職場の人間関係を含めた環境との関係を理解し、メンタルヘルスの重要性について理解できる。 3. 現代社会特有の精神保健上の問題を理解し、問題への対策と今後の方向性について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回	精神保健で扱われる現象 精神保健の保持・増進としての精神保健（テキスト序章）					
第 2 回	地域精神保健 精神看護の分野（テキスト序章）					
第 3 回	暮らしの場と精神（心）の健康～学校と精神（心）の健康（テキスト第 4 章）					
第 4 回	暮らしの場と精神（心）の健康～職場・仕事と精神（心）の健康（テキスト第 4 章）					
第 5 回	暮らしの場と精神（心）の健康～地域における生活と精神（心）の健康（テキスト第 4 章）					
第 6 回	現代社会と精神（心）の健康～現代社会の特徴：社会構造の変化と社会病理（テキスト第 6 章）					
第 7 回	現代社会と精神（心）の健康～現代社会における精神保健の主な問題： ドメスティックバイオレンス・ひきこもり（テキスト第 6 章）					
第 8 回	現代社会と精神（心）の健康～現代社会における精神保健の主な問題： 職場におけるハラスメント・自殺（テキスト第 6 章）					
第 9 回	現代社会と精神（心）の健康～現代社会における精神保健の主な問題： 不登校・いじめ・自傷行為（テキスト第 6 章）					
第 10 回	現代社会と精神（心）の健康～現代社会における精神保健の主な問題： 虐待・アルコール問題・薬物問題（テキスト第 6 章）					
第 11 回	現代社会と精神（心）の健康～現代社会における精神保健の主な問題・犯罪・非行・ギャンブル依存・IT 依存（テキスト第 6 章）					
第 12 回	精神保健福祉の歴史と現在の姿 精神医療歴史 諸外国における精神医療の歴史と現在（テキスト第 7 章）					
第 13 回	精神保健福祉の歴史と現在の姿 精神医療の歴史 日本における精神医療の歴史と現在 精神障害をもつ人を守る法・制度（テキスト第 7 章）					
第 14 回	精神保健福祉の歴史と現在の姿 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 入院医療の形態 入院患者の処遇と権利擁護（テキスト第 7 章）					
第 15 回	総まとめ					
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
岩崎弥生著，新体系 看護学全書 1 精神看護学精神看護学概論・精神保健 第 5 版，メヂカルフレンド社，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		精神保健	成田 邦男	1	1 (30)	後期
授業概要						
全てのライフサイクルにおける心の健康という視点に立ち、心の発達を理解し、心の働きを知るための理論や方法を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. こころの健康とは何か、脳の構造、認知機能、神経基盤について理解し、精神（こころ）の構造と働きについて理解できる。 2. 発達に関する理論、アイデンティティの概念、「愛着」「自己表現」の意味、思考能力の年齢による差が理解できる。 3. 現代の家族の様相やライフサイクルの変化、家族システムという考え方について理解できる。 4. ストレスとストレスコーピング、セルフマネジメントの考えと方法が理解できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 自己紹介 精神健康保健について概要</p> <p>第 2 回 精神（心）のとらえかた（テキスト第 1 章） 1.こころって・・・何？ 2.こころと脳の関係、脳の構造と認知機能（テキスト第 1 章）</p> <p>第 3 回 精神（心）のとらえかた こころの構造と働きについて</p> <p>第 4 回 成長段階における発達課題と人間関係について（テキスト第 2 章） フロイト 自我について</p> <p>第 5 回 成長段階における発達課題と人間関係について フロイト エディプスコンプレックス他</p> <p>第 6 回 家族と心の健康について（テキスト第 3 章） 家族とは、夫婦関係、親子関係、</p> <p>第 7 回 家族と心の健康について 家族ライフサイクル、家族システム</p> <p>第 8 回 心の危機的状況と精神保健（テキスト第 5 章） ストレスについて</p> <p>第 9 回 家族と心の健康</p> <p>第 10 回 ストレスについて</p> <p>第 11 回 ストレスコーピング</p> <p>第 12 回 セルフマネジメントについて</p> <p>第 13 回 試験対策 マズロー フロイトなど</p> <p>第 14 回 試験対策 防衛機制 発達段階など</p> <p>第 15 回 まとめ</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
岩崎弥生著，新体系 看護学全書 1 精神看護学精神看護学概論・精神保健 第 5 版，メヂカルフレンド社，2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		精神看護学援助論Ⅰ	武藤崇央・花田雅美	2	1（30）	後期
授業概要						
精神障害者の社会背景や精神障害に対する正しい知識を持ち、その援助方法を理解し、保健・医療・福祉の視点から地域で生活する精神障害者の看護と暮らしの場の拡大のための援助を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神（心）を病むとはどういうことか、また精神障害を持つ人の経験していることを学び、理解を深めることができる。 2. 精神疾患の治療に必要な診断と基準、治療の実際が理解できる。 3. 代表的な精神疾患についてそれぞれの症状、経過について学ぶことができる。 4. 精神障害をもつ人及びその家族について学び、「患者—看護師」関係の在り方を理解することができる。 5. 診察及び検査時、治療に対する援助技術と注意点、生活指導など精神障害のある患者の看護について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
全 15 回（30H）の授業は、第 1 回目～10 回目までを武藤崇央が担当、第 11 回目～15 回目までを花田雅美が担当する。						
第 1 回	自己紹介、授業概要の説明、精神医療・看護の対象者、精神（心）を病むということ					
第 2 回	精神障害を持つ人の抱える症状					
第 3 回	精神科的診察、診察、一般検査・画像検査、心理検査					
第 4 回	精神疾患・障害の診断基準・分類					
第 5 回	主な精神疾患・障害・主な治療法 （神経発達症群、統合失調症スペクトラム障害、双極性障害及び関連障害群）					
第 6 回	主な精神疾患・障害・主な治療法 （抑うつ障害群、不安症群・不安障害群、強迫症および関連症群）					
第 7 回	主な精神疾患・障害・主な治療法 （心的外傷及びストレス因関連因障害群、解離症群・解離性障害群、身体症状・食行動障害、睡眠覚醒障害群）					
第 8 回	精神障害を持つ人と「患者—看護師関係の構築」	関係構築のための基本的な態度				
第 9 回	精神障害を持つ人と「患者—看護師関係の構築」	関係構築のためのコミュニケーション				
第 10 回	我が国の精神看護の発展、災害時精神保健 まとめ					
第 11 回	自己紹介、精神科病棟という治療環境と患者の生活					
第 12 回	精神疾患・障害を持つ患者への看護 （統合失調症、うつ病、双極性障害、認知症、妄想性障害、アルコール依存）					
第 13 回	精神疾患・障害を持つ患者への看護 （脅迫性障害、神経症やせ症摂食制限型、注意欠陥・多動性障害、自閉症スペクトラム障害）					
第 14 回	精神障害をもつ人の地域における生活への支援					
第 15 回	まとめ					
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%（武藤 70 点・宮平 30 点）、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
渡邊 博幸著, 新体系 看護学全書 2, 精神看護学, 精神障害をもつ人の看護, 第 5 版, メヂカルフレンド社, 2017						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		精神看護学援助論Ⅱ	オムニバス形式	3	1（15）	前期
授業概要						
精神障害をもつ対象を理解し、個別性に応じた援助について授業を通して看護過程を用いて学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護における基本的な知識、考え方について理解できる。 2. 精神障害を持つ対象者と家族を理解し全体像を捉えることができる。 3. 精神障害を持つ対象者の援助について考えることができる。 						
授業計画・授業内容						
全8回（15H）の授業は、第1～8回を小笠原直美、第5～8回までの授業・事例演習に関しては非常勤講師、第5～6回的事例演習は非常勤講師が担当する。						
第1回	授業概要の説明、精神看護事例展開①					
第2回	精神看護事例展開②					
第3回	精神看護事例展開③、グループワーク					
第4回	精神看護事例展開④、グループワーク					
第5回	精神看護事例展開⑤、グループワーク					
第6回	精神看護事例展開⑥、グループワーク					
第7回	精神疾患をもつ患者の理解、事例のまとめ					
第8回	精神障害を持つ患者の自己管理、セルフマネジメント、服薬自己管理、退院支援等					
評価方法						
事例にて評価 100%、60点以上で合格						
使用教科書						
渡邊 博幸著、新体系看護学全書 精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、第5版、メヂカルフレンド社、2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		成人看護実習Ⅰ	太田希子・吉田妙恵子	2	2（90）	前期
授業概要						
成人期にある対象を理解し、日常生活援助を行うことができる。看護計画を立案することができる。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の発達段階と身体的・精神的・社会的特徴がわかり、対象を総合的に理解することができる。 2. 対象の健康障害の状況や経過（急性期・慢性期・回復期・終末期）がわかり、個別性に応じた看護を理解し実践することができる。 3. 継続看護の重要性がわかり、保健医療福祉チームの看護師の役割を理解することができる。 4. 看護者としての倫理的あり方を追求しながら、誠実な態度で実習に臨み対象や家族との関係を築くことができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《病棟》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～17：00（7.5時間） 12日間（原則として第1・2週の水曜日を帰校日とする） ・ 患者を受け持ち看護展開（看護計画立案まで）を行う。また、受け持ち以外の処置の見学・一部実施をすることもある。 ・ 実習記録 <p>《帰校日》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9：00～16：20（6時間） ・ 受け持ち患者の看護展開 ・ 技術練習 <p>※他詳細については、実習要綱を参照してください</p>						
評価方法						
実習評価表にて評価する。100点満点とし60点以上を合格、60点未満は不合格とする						
使用教科書						
<p>小松浩子著他，成人看護学総論，医学書院，2018</p> <p>香春知永著他，臨床看護総論，医学書院，2018</p>						
参考書						
特になし						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録を綴るファイル（A4サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		成人看護実習Ⅱ	太田希子・吉田妙恵子	2	2（90）	前期
授業概要						
成人期にある対象を理解し、日常生活援助を行うことができる。看護過程の評価までができる。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の発達段階と身体的・精神的・社会的特徴がわかり、対象を総合的に理解することができる。 2. 対象の健康障害の状況や経過（急性期・慢性期・回復期・終末期）がわかり、個別性に応じた看護を理解し実践することができる。 3. 継続看護の重要性がわかり、保健医療福祉チームの看護師の役割を理解することができる。 4. 看護者としての倫理的あり方を追求しながら、誠実な態度で実習に臨み対象や家族との関係を築くことができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《病棟》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～17：00（7.5時間） 12日間（原則として第1・2週の水曜日を帰校日とする） ・ 患者を受け持ち看護展開（看護計画評価まで）を行う。また、受け持ち以外の処置の見学・一部実施をすることもある。 ・ 実習記録 <p>《帰校日》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9：00～16：20（6時間） ・ 受け持ち患者の看護展開 ・ 技術練習 <p>※他詳細については、実習要綱を参照してください</p>						
評価方法						
実習評価表にて評価する。100点満点とし60点以上を合格、60点未満は不合格とする						
使用教科書						
<p>小松浩子著他，成人看護学総論，医学書院，2018</p> <p>香春知永著他，臨床看護総論，医学書院，2018</p>						
参考書						
特になし						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録を綴るファイル（A4サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		成人看護実習Ⅲ	太田希子・吉田妙恵子	2	2（90）	前期
授業概要						
成人期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解して看護過程を展開することができる。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の発達段階と身体的・精神的・社会的特徴がわかり、対象を総合的に理解することができる。 2. 対象の健康障害の状況や経過（急性期・慢性期・回復期・終末期）がわかり、個別性に応じた看護を理解し実践することができる。 3. 継続看護の重要性がわかり、保健医療福祉チームの看護師の役割を理解することができる。 4. 看護者としての倫理的あり方を追求しながら、誠実な態度で実習に臨み対象や家族との関係を築くことができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《病棟》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～17：00（7.5時間） 12日間（原則として第1・2週の水曜日を帰校日とする） ・ 患者を受け持ち看護展開（看護計画立案・評価・修正）を行う。また、受け持ち以外の処置の見学・一部実施をすることもある。 ・ 実習記録 <p>《帰校日》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9：00～16：20（6時間） ・ 受け持ち患者の看護展開 ・ 技術練習 <p>※他詳細については、実習要綱を参照してください</p>						
評価方法						
実習評価表にて評価する。100点満点とし60点以上を合格、60点未満は不合格とする						
使用教科書						
小松浩子著他、成人看護学総論、医学書院、2018 香春知永著他、臨床看護総論、医学書院、2018						
参考書						
特になし						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録を綴るファイル（A4サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		老年看護実習Ⅰ	中井 幾子	2	1（45）	後期
授業概要						
施設における高齢者の生活状況を知るとともに、日常生活援助の実際を通して高齢者の理解を深めることを学習する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の概要と介護老人保健施設または、特別養護老人ホームの機能・役割が理解できる。 2. 高齢者と関わり得られた情報から、高齢者の生きがい・QOLを支えることの重要性について理解できる。 3. 高齢者の健康レベル・自立度に応じた日常生活援助が実施できる。 4. 施設における各職種の役割と職種間の協働・連携の重要性が理解できる。 5. 看護倫理をふまえた誠実な態度で援助することができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《施設》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～16：00（6.5時間） 7日間（原則として水曜日を帰校日とする） ・ 受け持ちは持たず、施設で生活する多くの高齢者と関わる ・ 日常生活援助の見学・一部実施をする ・ 実習記録 <p>《学内》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9：00～16：20（6時間） ・ 実習を振り返り、高齢者を支える老人保健制度について思考整理 ・ レクリエーションの準備 <p>※他詳細については、実習要項を参照してください</p>						
評価方法						
実習評価表にて評価する。100点満点とし60点以上を合格、60点未満は不合格とする						
使用教科書						
特になし						
参考書						
北川公子著他、老年看護学、医学書院、2018 鳥羽研二著他、老年看護病態・疾患論、医学書院、2018						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録を綴るファイル（A4サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		老年看護実習Ⅱ	中井 幾子	3	3（135）	前期
授業概要						
健康障害をもった老年期の対象の健康問題を総合的に理解し、その看護について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。 2. 健康障害のある高齢者に対して看護過程を用いて看護展開ができる。 3. 高齢者の生活の特徴及び過去の生活家庭を考慮した日常生活の援助ができる。 4. 医療施設と保健、福祉の連携について理解できる。 5. 看護倫理をふまえた誠実な態度で援助できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《病棟》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～17：00（7.5時間） 3週間（原則として水曜日を帰校日とする） ・ 患者を受け持ち看護展開を行う。また、受け持ち以外の処置の見学・一部実施をすることもある。 ・ 実習記録 <p>《帰校日》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9：00～16：20（6時間） ・ 受け持ち患者の看護展開 ・ 技術練習 <p>※他詳細については、実習要項を参照してください</p>						
評価方法						
実習評価表にて評価する。100点満点とし60点以上を合格、60点未満は不合格とする						
使用教科書						
特になし						
参考書						
<p>小松浩子著他，成人看護学総論，医学書院，2018</p> <p>香春知永著他，臨床看護総論，医学書院，2018</p> <p>鳥羽研二著他，老年看護病態・疾患論，医学書院，2018</p>						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録を綴るファイル（A4サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		小児看護実習	高橋英恵・長清美	3	2(90)	前期
授業概要						
小児看護実習では、看護の対象である子どもの特徴を理解し、あらゆる健康レベルにおける子どもの養護者・家族に対して、個別的なケアを提供するために必要な基礎的知識を習得し技術・態度について学習する。						
到達目標						
病棟実習目標						
<ol style="list-style-type: none"> 健康障害が小児及び家族に与える影響について理解して必要な看護が理解できる。 対象の成長・発達段階に応じた日常生活援助、および治療・処置に対する基本的援助技術が理解で 小児をひとりの人として尊重し、権利をもった存在であることを理解でき、看護学生として責任を果たすことができる。 						
支援学校・児童発達支援センター実習目標						
<ol style="list-style-type: none"> 対象の学内（園内）での生活や環境を知ることができる。 対象へ関わり方の個別性を知ることができる。 健康、安全教育を含めた対象への支援を知ることができる。 多職種との連携について知ることができる。 						
授業計画・授業内容						
《病棟》						
<ul style="list-style-type: none"> ・8：30～17：00（7.5時間） 1週間（原則として水曜日を帰校日とする） ・患児を受け持ち看護展開を行う。また、受け持ち以外の処置の見学・一部実施をすることもある。 ・実習記録 						
《支援学校・児童発達支援センター》						
<ul style="list-style-type: none"> ・8：30～15：30（6時間） 2日間 学内2日間 ・クラスに入って見学をする 						
《学内》						
<ul style="list-style-type: none"> ・8：30～16：20（6時間） ・DVDなどを使用し、小児の看護について自己学習する ・技術練習 						
※他詳細については、実習要項を参照してください						
評価方法						
《病棟》《支援学校・児童発達支援センター》 それぞれ評価表にて評価とする。100点満点とし、60点未満は不合格とする						
使用教科書						
特になし						
参考書						
奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1, 医学書院 第13版, 2018						
奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2, 医学書院 第13版, 2018						
佐々木祥子他, 写真でわかる小児看護技術 アドバンス, インターメディアカ, 第1版, 2017						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		母性看護実習	高橋英恵・長清美	3	2(90)	前期
授業概要						
<p>母性看護実習では、妊娠、分娩、産褥期にある母子および新生児の特徴を理解し、母子に対して適切な看護ができる能力を養う。主に、産褥期・新生児期の対象への看護を中心に、外来実習やNICUの見学実習、病棟実習を行い看護実践を学ぶ。また、分娩見学を通して生命の誕生場面に触れるとともに生命の尊厳について学習する。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠、分娩、産褥期の生理的特徴について理解し、各期の看護を学ぶことができる。 2. 母子相互作用について理解し、母子関係成立に向けての援助を学ぶことができる。 3. 母性が保険行動や養育行動を獲得していくための看護の実際を学ぶことができる。 4. 新生児の生理的特徴について理解し、日常の看護を学ぶことができる。 5. 生命の尊厳や、母性の特徴について自己の考えを深めることができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《病棟》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～17：00（7.5時間） 1週間（原則として水曜日を帰校日とする） ・ 分娩期、産褥期、新生児への看護の見学一部実施する ・ 実習記録 <p>《外来》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～15：30（6時間） 2日間（原則として月曜日と火または金曜日） ・ 妊婦に同行する ・ 実習記録、妊婦健康診査記録 <p>《NICU》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～16：20（臨地3時間と学内3時間） ・ NICU、GCUの見学をする ・ レポート <p>《学内》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～16：20（6時間） 7日間 ・ DVDなどを使用し、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児の看護について自己学習する ・ 技術練習 <p>※他詳細については、実習要項を参照してください</p>						
評価方法						
<p>《病棟》《外来》《NICU》 それぞれ評価表にて評価とする。100点満点とし、60点未満は不合格とする</p>						
使用教科書						
<p>特になし</p>						
参考書						
<p>森恵美他，専門分野Ⅱ・母性看護学各論・母性看護学②，医学書院，第13版，2020 井上裕美他，病気がみえる・vol. 10・産科，メディックメディア，第3版，2018 有森直子他，アセスメントスキルを習得し質の高い周産期ケアを追求する・母性看護学Ⅱ・周産期各論，医歯薬出版株式会社，第1版，2015</p>						
その他						
<p>特になし</p>						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		精神看護実習Ⅰ	小笠原 直美	2	1（45）	後期
授業概要						
<p>精神の健康保持・増進のための精神保健活動など、精神保健福祉との関連を理解する。 主に、疾患・症状の再発予防や社会生活機能の回復を目的とした地域生活支援の実践を学習する。 外来実習では精神科外来看護師の役割について学習する。</p>						
到達目標						
<p>デイケア実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する精神障がいをもつ対象者の理解ができる。 2. 精神科デイケアの役割が理解できる。 3. 看護者としての倫理的あり方を追求し、意欲的及び誠実な態度で実習に臨むことができる。 <p>外来実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 精神科における外来看護の役割を理解し、看護者の関わりの実践を学ぶことができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《デイケア》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～16：00（6.5時間） 5日間（原則として1日間は学内実習とする） ・ 実習記録 <p>《外来》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～16：30（7時間） 2日間（原則として1日間は学内実習） ・ 外来処置室、診察室介助を見学する。 ・ レポート <p>《学内》</p> <p>デイケア 9：00～16：20（6時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域生活を支える社会制度や法律について自己学習する。 <p>外来 9：00～16：20（6時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学実習で得た学びを教科書で確認し学習する。 <p>※他詳細については、実習要綱を参照してください。</p>						
評価方法						
<p>《デイケア》《外来》 それぞれ評価表にて評価する。指導者と教員合わせて100点満点とし、60点未満は不合格とする。</p>						
使用教科書						
<p>特になし</p>						
参考書						
<p>岩崎弥生他，新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健，メヂカルフレンド社，第5版，2019</p> <p>岩崎弥生他，新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護，メヂカルフレンド社，第5版，2020</p>						
その他						
<p>特になし</p>						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ		精神看護実習Ⅱ	小笠原 直美	3	1(45)	前期
授業概要						
精神障がいをもつ対象とのかかわりのプロセスを通して対象を理解し、精神看護の実際を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障がいをもつ対象の理解ができる。 2. 自己洞察を通して他者理解を深め、実践的な看護に役立たせることができる。 3. 精神障がいをもつ対象への看護の実際と保健・医療・福祉チームの連携について理解できる 4. 精神看護の場に関心を示し、意欲的及び積極的に実習に取り組むことができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《病棟》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～17：00（7.5時間） 7日間（原則として7.5時間は学内実習とする） ・ 精神障がいをもつ対象者と関わり、日常生活援助の見学・一部介助をする。 ・ プロセスレコードを通して自己の言動、行動から関わりを振り返る。 ・ 実習記録、プロセスレコード <p>《学内》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9：00～16：20（6時間） ・ 9：00～10：30（1.5時間） ・ 精神科疾患、看護について自己学習する。 ・ コミュニケーション場面を振り返りプロセスレコードを記載する。 <p>※他詳細については、実習要綱を参照してください。</p>						
評価方法						
評価表にて評価する。100点満点とし、60点未満は不合格とする						
使用教科書						
特になし						
参考書						
岩崎弥生他，新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健，メヂカルフレンド社，第5版，2019 岩崎弥生他，新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護，メヂカルフレンド社，第5版，2020						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野		在宅看護概論	蛭名 千昌	1	1（15）	後期
授業概要						
地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅における看護の基礎を教授する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々が地域で生活する在宅という環境において、対象の「生きること」を支え、住み慣れた地域で暮らすことが出来るよう環境やシステムを効果的に活用することが理解できる。 2. 在宅看護がどのような法令に基づいて行われているのかを知り、介護保険制度のあらましを理解できる。 3. 在宅看護におけるケアマネジメントが理解できる。 4. 在宅看護過程の展開のポイントを理解し、その展開方法について理解できる。 5. 在宅看護における医療事故防止や感染対策、対象者の権利保障について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
第 1 回	在宅看護の目指すもの（在宅看護に求められていること）					
	在宅看護における看護師の役割（超高齢多死社会の進展と地域包括ケアシステムの中で）					
第 2 回	在宅看護の対象者と家族への支援 また、健康に暮らせる住まいと住まい方					
第 3 回	在宅看護の提供方法（外来看護・訪問看護）					
	患者家族の意思決定支援と調整、退院支援					
第 4 回	在宅看護にかかわる法令と制度（介護保険制度・医療保険制度）					
第 5 回	ケアマネジメントと社会資源の活用					
	地域における他職種連携					
第 6 回	在宅看護過程の展開のポイント					
第 7 回	療養上のリスクマネジメント（安全の確保・事故防止・災害に対する準備対応）と権利擁護（個人情報保護・成年後見・虐待）					
評価方法						
筆記試験 100%、60 点未満は不合格						
使用教科書						
秋山正子外，統合分野 在宅看護論，第 5 版，医学書院，2020						
参考書						
渡辺 裕子，家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第 4 版，日本看護協会出版会，2018						
長谷川素美著他，ナーシンググラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア，メディカ出版，2020						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野		在宅看護援助論	保坂明美・高畑智子	2	2（60）	通年
授業概要						
個々の家族を含んだ対象の状況に応じた在宅看護を展開するために、基礎看護学で学んだ基礎看護技術を統合し、在宅場面で実施できる知識・技術を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・基礎看護技術を統合し、在宅における看護技術について理解できる。 2. 在宅医療技術について理解できる。 3. 在宅看護介入時期別の特徴について理解できる。 4. 在宅看護の事例展開を学び、在宅における看護の役割が理解できる。 						
授業計画・授業内容						
全 30 回（60H）の授業は、第 1～15 回（在宅看護技術）と第 27～29 回（小児在宅看護の実際）は保坂明美が担当、第 16～26 回と 30 回（在宅看護の実際）は高畑智子が担当する。						
（在宅看護技術）						
第 1 回	授業のオリエンテーション	介護保険、医療保険の説明、在宅の考え方				
第 2 回	在宅看護過程講義	事例展開				
第 3 回	事例展開	発表				
第 4 回	在宅看護技術	呼吸				
第 5 回	摂食・嚥下					
第 6 回	摂食・嚥下フードテスト	排泄				
第 7 回	排泄の援助	移動・移乗の援助				
第 8 回	清潔と移動	認知症				
第 9 回	住宅のデンド・オブ・ライフケア					
第 10 回	在宅看護技術	褥瘡 留置カテーテル				
第 11 回	在宅看護技術	ストマ 栄養				
第 12 回	IVH	HOT				
第 13 回	事例展開					
第 14 回	事例展開					
第 15 回	事例展開	まとめ				
（在宅看護の実際）						
第 16 回	在宅看護介入	時期別の特徴（準備期・急性増悪期・移行期・終末期・安定期）				
第 17 回	脳卒中の在宅看護事例					
第 18 回	脳卒中の在宅看護事例					
第 19 回	脳卒中の在宅看護事例					
第 20 回	パーキンソン病の在宅看護事例					
第 21 回	COPDの療養者の在宅看護事例					
第 22 回	ALSで人工呼吸療法を実施する在宅看護の事例					
第 23 回	統合失調症の療養者の療養者の在宅看護事例					
第 24 回	終末期（がん）の療養者の在宅看護事例					
第 25 回	終末期（がん）の療養者の在宅看護事例					
第 26 回	終末期（がん）の療養者の在宅看護事例					
第 27 回	小児療養者に対する在宅看護事例					
第 28 回	小児療養者に対する在宅看護事例					
第 29 回	グループワーク発表・質疑応答					
第 30 回	総まとめ					
* 授業の状況によっては、講義順番の変更の可能性あり						
評価方法						
在宅看護技術（保坂明美）：レポート及び事例にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
在宅看護の実際（高畑智子）：試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						

使用教科書

秋山 正子著, 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版, 医学書院, 2020

参考書

特になし

その他

特になし

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野		在宅看護方法論	蛭名 千昌	3	1（15）	前期
授業概要						
<p>看護者のケアマネジメント能力と継続看護について考えながら在宅看護過程を展開し、訪問看護の援助技術を実践する力と訪問者としての態度を学ぶ。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 療養者の健康上及び生活上の問題をアセスメントし、看護問題を明確にし、計画立案できる。 介護保険サービス・社会資源を活用したケアマネジメントの視点と他職種連携について理解できる。 在宅看護援助におけるリスクマネジメントの視点が理解できる。 計画に基づき在宅における安全安楽な技術の実施ができる。 訪問看護師として生活の場へ訪問する態度及び技術を身につけることができる。 						
授業計画・授業内容						
<p>ペーパーペイシエントにて訪問看護の援助活動の実際を演習で組み立て、ロールプレイで実施する。グループでペーパーペイシエントの看護過程を展開したのち、演習計画書、チェックリストを作成し30分の演習を実施する。</p>						
<p>第1回 グループで療養者の健康上の問題及び生活上の問題をアセスメントする。</p>						
<p>第2回 看護問題を明確にし、計画立案することが出来る。 （介護保険サービスや社会資源を活用したケアマネジメントの視点と他職種連携を考慮して立案する）</p>						
<p>第3回 演習計画書の作成</p>						
<p>第4回 チェックリスト作成</p>						
<p>第5回 在宅演習室にて演習実施</p>						
<p>第6回 在宅演習室にて演習実施</p>						
<p>第7回 総まとめ</p>						
評価方法						
<p>①事例（アセスメント～計画立案） ②演習計画書 ③チェックリスト ④個人レポート</p> <p>①～③提出（90%） ④（10%）</p>						
使用教科書						
<p>秋山正子，統合分野 在宅看護論，第5版，医学書院，2020</p>						
参考書						
<p>渡辺裕子，家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編・II 実践編，第4版，日本看護協会出版会，2018</p>						
その他						
<p>特になし</p>						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野		災害看護	オムニバス形式	3	1（30）	前期
授業概要						
<p>災害時の看護活動について理解する。 救護活動に必要な組織的連携、役割責務について学ぶ。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の概念、構造について理解できる。 2. 災害と健康について理解できる。 3. 災害時の看護活動について理解できる。 4. 対象の心理的反応について理解しケアのあり方を理解できる。 5. 災害の備えとそのシステムについて理解できる。 6. 災害看護の役割について考察できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>全15回の授業は、加藤由美子、小宮裕子、中村洋美、常田智子が担当し（担当時間数は未定）、第15回を総まとめする。</p>						
<p>第1回 災害医療の基礎知識① 災害の種類と健康障害 災害医療の特徴 第2回 災害医療の基礎知識② 災害と情報 災害対応に関わる職種間・組織間連携 第3回 災害医療の基礎知識③ 災害看護と法律 国内の救援活動の現状と課題 第4回 災害看護の基礎知識① 災害看護の定義と役割 災害看護の対象 第5回 災害看護の基礎知識② 災害看護の特徴と看護活動 第6回 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護① 急性期・亜急性期 第7回 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護② 慢性期・復興期・静穏期 第8回 被災者特性に応じた災害看護の展開① 子ども・妊産婦・高齢者・障害者に対する災害看護 第9回 被災者特性に応じた災害看護の展開② 精神障害者・慢性疾患患者・在日外国人に対する災害看護 第10回 災害とこころのケア 第11回 地震災害看護の展開① 発災直後から出動までの看護 急性期の看護 第12回 地震災害看護の展開② 救護活動の実際 トリアージの基本と方法 他 第13回 地震災害看護の展開③ 救護活動の実際 応急処置 他 第14回 地震災害看護の展開④ 亜急性期の看護 第15回 地震災害看護の展開⑤ 慢性期・復興期の看護 総まとめ</p>						
<p>※ 講義の進捗状況に応じて調整することがある</p>						
評価方法						
<p>授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は60点以上で合格</p>						
使用教科書						
<p>浦田喜久子著、系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 第4版, 医学書院, 2020</p>						
参考書						
<p>特になし</p>						
その他						
<p>特になし</p>						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野		国際看護	大上 育子	3	1 (30)	後期
授業概要						
看護の国際協力・組織・役割を理解し、国際的視野を広げる。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の健康問題の現状について理解し、国際看護学とは何かを理解できる。 2. 国際協力のしくみについて理解できる。 3. プライマリーヘルスケア及び国際看護の基本理念について理解できる。 4. 異文化理解について理解できる。 5. 国際看護活動の展開について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 国際看護とは 国際看護学の定義 国際看護学に関連する基礎知識</p> <p>第 2 回 グローバルヘルス① 保健医療分野の開発理念の変遷</p> <p>第 3 回 グローバルヘルス② 世界の健康問題の現状</p> <p>第 4 回 国際協力のしくみ① 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関</p> <p>第 5 回 国際協力のしくみ② 国際救援の調整 開発協力</p> <p>第 6 回 文化を考慮した看護</p> <p>第 7 回 国際看護活動の展開過程① 情報収集とアセスメントおよび問題の明確化</p> <p>第 8 回 国際看護活動の展開過程② 計画 実施 評価</p> <p>第 9 回 開発協力と看護① 開発協力の概況と健康</p> <p>第 10 回 開発協力と看護② 開発協力における保健医療の概念と看護</p> <p>第 11 回 開発協力と看護③ 開発途上国と看護</p> <p>第 12 回 開発協力と看護④ 開発途上国と看護 開発途上国における国際看護の展開</p> <p>第 13 回 国際救援と看護① 近年の世界における災害と難民・国内避難民の現状 国際救援活動の基本理念</p> <p>第 14 回 国際救援と看護② 国際的な災害救援および復興支援にかかるガイドライン 最近のおもな国際救援活動の実際 国際救援の課題</p> <p>第 15 回 国際救援と看護③ 国際的な緊急救援における看護の展開 紛争に対する国際救援における看護の展開 総まとめ</p> <p>※ 講義の進捗状況に応じて調整することがある</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
浦田喜久子著, 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 第 4 版, 医学書院, 2020						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野		看護管理	深川 知恵子	3	1（30）	後期
授業概要						
看護マネジメントについて、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. サービスとしての医療及び看護サービスの概念を理解できる。 2. 看護管理・マネジメントのあり方を理解できる。 3. 看護管理・マネジメントに影響する法律・制度について理解できる。 4. 看護職のキャリアマネジメントについて理解できる。 5. 医療安全と医療の質の保証について理解できる。 						
授業計画・授業内容						
<p>第 1 回 看護管理学とマネジメントについて</p> <p>第 2 回 看護ケアのマネジメントと看護職の機能</p> <p>第 3 回 安全管理</p> <p>第 4 回 チーム医療と看護業務の実践</p> <p>第 5 回 看護職のキャリアマネジメント</p> <p>第 6 回 看護サービスのマネジメント</p> <p>第 7 回 看護サービス提供のしくみづくり</p> <p>第 8 回 人材マネジメント</p> <p>第 9 回 施設・設備環境・物品・情報のマネジメント</p> <p>第 10 回 組織におけるリスクマネジメントとサービスの評価</p> <p>第 11 回 マネジメントに必要な知識と技術</p> <p>第 12 回 組織の調整</p> <p>第 13 回 看護を取り巻く諸制度について</p> <p>第 14 回 医療制度・看護政策と制度</p> <p>第 15 回 まとめ・テスト</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
上泉和子著，系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 第 3 版，医学書院，2020						
参考書						
吉田千文他編，ナースィング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理 第 4 班，株式会社メディカ出版，2018						
その他						
実習中に気づいた看護管理に関する問題・疑問・課題解決に向けて考えたことを整理しておくこと。						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期																														
統合分野		総合技術	オムニバス形式	3	1 (30)	後期																														
授業概要																																				
既習の看護知識・技術を統合して、複数患者に対して優先度を考えた看護の事例展開を行い、演習を通して総合的な判断や対応について学習する。																																				
到達目標																																				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の患者に、根拠に基づき優先順位を考えた行動計画を立案・実施できる。 2. 計画に基づき、患者に合わせた安全・安楽な技術が実施できる。 3. 実施した看護を評価できる。 4. 看護チームを把握し、適切な行動、報告ができる。 																																				
授業計画・授業内容																																				
<p>授業の形式は、第1回目の講義は中井幾子が担当、第2回目は個人ワーク、第3回目～7回目までのグループワークは太田希子・中井幾子が担当、第8回目～11回目までの演習準備は中井幾子・笹木郁哉が担当、第12回目～13回目の演習は太田希子・中井幾子・笹木郁哉が担当、第14回目～15回目はグループでのまとめは太田希子・中井幾子・笹木郁哉が担当する。</p>																																				
<table> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>事例展開方法を説明</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>個人ワーク（事例展開する）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>個人ワークの事例展開をもとにグループワーク</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>第3回に引き続き、グループワーク実施</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>第4回に引き続き、グループワーク実施</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>第5回に引き続き、グループワーク実施</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>第6回に引き続き、グループワーク実施</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>演習の準備</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>第8回に引き続き、演習の準備</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>第9回に引き続き、演習の準備</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>第10回に引き続き、演習の準備</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>演習を実施（優先度を考え計画に基づいた援助をロールプレイングによりグループ発表）</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>第12回に引き続き、演習の準備（優先度を考え計画に基づいた援助をロールプレイングによりグループ発表）</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>演習実施後のグループまとめ</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>第14回に引き続き、グループまとめ</td> </tr> </tbody> </table>							第1回	事例展開方法を説明	第2回	個人ワーク（事例展開する）	第3回	個人ワークの事例展開をもとにグループワーク	第4回	第3回に引き続き、グループワーク実施	第5回	第4回に引き続き、グループワーク実施	第6回	第5回に引き続き、グループワーク実施	第7回	第6回に引き続き、グループワーク実施	第8回	演習の準備	第9回	第8回に引き続き、演習の準備	第10回	第9回に引き続き、演習の準備	第11回	第10回に引き続き、演習の準備	第12回	演習を実施（優先度を考え計画に基づいた援助をロールプレイングによりグループ発表）	第13回	第12回に引き続き、演習の準備（優先度を考え計画に基づいた援助をロールプレイングによりグループ発表）	第14回	演習実施後のグループまとめ	第15回	第14回に引き続き、グループまとめ
第1回	事例展開方法を説明																																			
第2回	個人ワーク（事例展開する）																																			
第3回	個人ワークの事例展開をもとにグループワーク																																			
第4回	第3回に引き続き、グループワーク実施																																			
第5回	第4回に引き続き、グループワーク実施																																			
第6回	第5回に引き続き、グループワーク実施																																			
第7回	第6回に引き続き、グループワーク実施																																			
第8回	演習の準備																																			
第9回	第8回に引き続き、演習の準備																																			
第10回	第9回に引き続き、演習の準備																																			
第11回	第10回に引き続き、演習の準備																																			
第12回	演習を実施（優先度を考え計画に基づいた援助をロールプレイングによりグループ発表）																																			
第13回	第12回に引き続き、演習の準備（優先度を考え計画に基づいた援助をロールプレイングによりグループ発表）																																			
第14回	演習実施後のグループまとめ																																			
第15回	第14回に引き続き、グループまとめ																																			
評価方法																																				
ロールプレイングによるグループ発表で100%とする。60点以上を合格、60点未満は再試とする。																																				
使用教科書																																				
<p>北川公子著他，老年看護学，医学書院，2020 鳥羽健二著他，老年看護病態・疾病論，医学書院，2020 井手隆文著他，脳神経・神経，医学書院，2020 松田明子著他，消化器，医学書院，2020</p>																																				
参考書																																				
必要時提示する																																				
その他																																				
<ol style="list-style-type: none"> 1. チェックリスト作成にPCとA4コピー用紙を使用 2. 実習室・リズム室使用、ベッド16台使用 3. 必要物品（排泄ケア、経管チューブ・経管ゴトル、清拭用具・口腔ケア用具・バイタルサイン用具） 																																				

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野		在宅看護実習 I	蛭名 千昌	2	1 (45)	後期
授業概要						
在宅療養者と家族への援助活動を通して看護の役割を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションの概要・役割・機能について理解し、利用する制度の違いが理解できる。 2. 地域で生活する対象と家族のニーズを理解し、健康状態や生活状況をふまえた看護活動の実際を理解できる。 3. 在宅での援助活動の実際をとおり、看護の役割を理解する。また、療養者に関わる家族や他職種の役割と連携の必要性を理解する。 4. 看護学生としての対象の生活の場に訪問するうえで必要な行動がとれる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《施設》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8:30～17:00 (7.5 時間) 1 週間のうち 4 日間 (原則として水曜日を帰校日とする) ・ 訪問看護師に同行し、在宅で暮らす高齢者や家族への看護の実際を見学する。 ・ 日常生活援助の見学・一部実施をする。 ・ 実習記録 <p>《学内》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9:00～16:20 (6 時間) 1 日間 ・ 訪問看護ステーションの振り返りと既存の学習を関連付けてまとめる。 <p>《施設見学》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 13:00～16:20 (3 時間) 施設見学 ・ 9:00～16:20 (6 時間) グループワーク・発表 ・ 介護保険サービスの種類や現在の超高齢社会の現状や課題について、各々のテーマを選出し、グループで調べ学習をする。 <p>※他詳細については、実習要綱を参照してください</p>						
評価方法						
実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする						
使用教科書						
特になし						
参考書						
<p>河原加代子著他、在宅看護論、医学書院、2020</p> <p>長谷川素美著他、ナーシンググラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア、メディカ出版、2020</p> <p>渡辺裕子著他、家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編・II 実践編、日本看護協会、2018</p>						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習を整理するバインダー (A4 サイズ) 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具 						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野		在宅看護実習Ⅱ	蛭名 千昌	3	1（45）	前期
授業概要						
地域で生活しながら療養する人々を支える社会資源の活用と保健・医療・福祉の連携の実際を学ぶ。						
到達目標						
(地域包括支援センター)						
1. 地域包括支援センターの概要・役割・機能の実際について理解する。						
2. 地域で生活する人々とその家族の暮らしの様子（環境・生活）や健康上の問題を統合的に理解する。						
3. 地域における介護予防活動の目的や活動の実際が分かる。また、それぞれの地域の特性を捉え、地域で暮らす人々の生きがいや主体性の発揮を支援する街づくりの視点を学ぶ。						
4. 人々が地域で暮らし続けるための保健・医療・福祉（介護）における他職種の役割と連携の必要性について理解できる。						
5. 対象者との交流を通してコミュニケーション能力を育て、学生としての適切な行動がとれる。						
(通所リハビリテーション)						
1. 通所リハビリテーションの役割・機能について理解する。						
2. 通所している高齢者の身体的特徴と生活している環境を理解できる。						
3. 施設を利用している高齢者の通所目的や経過を理解し、自立に向けた支援を考えることが出来る。						
4. 保健・医療・福祉チームでの連携の必要性が理解できる。						
5. 対象者との交流を通してコミュニケーション能力を育て、学生としての適切な行動がとれる。						
授業計画・授業内容						
《地域包括支援センター》						
・ 8：30～17：00（7.5時間） 2日間						
・ センターの職員に同行して、利用者さんのお宅へ訪問し暮らしの様子や支援の実際を学ぶ。						
・ 健康づくり教室へ参加し地域で暮らす高齢者の方と交流し、活動の実際を学ぶ。また、介護予防活動の支援を学ぶ。						
・ 実習記録						
《通所リハビリテーション》						
・ 8：30～17：00（7.5時間） 2日間						
・ 受け持ち患者（AM・PM）どちらかのリハビリメニュー（個別訓練・自主訓練）の技術記録						
・ 実習記録						
《学内》						
・ 9：00～16：20（6時間） 2日間						
9：00～12：00（3時間） 1日間						
・ 地域で暮らす高齢者の対象理解と他職種連携・看護の役割を学び、既存の学習と関連付ける。						
※他詳細については、実習要項を参照してください						
評価方法						
実習評価表にて評価する。100点満点とし60点以上を合格、60点未満は不合格とする						
使用教科書						
特になし						
参考書						
河原加代子著他、在宅看護論、医学書院、2020						
長谷川素美著他、ナーシンググラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア、メディカ出版、2020						
その他						
1. 事前学習を整理するバインダー（A4サイズ）						
2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具						

分野	No.	科目名	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野		統合実習	中井 幾子	3	2 (90)	後期
授業概要						
<p>これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員としての役割遂行をめざした看護実践力を身につける。また、看護専門職としての役割、責務、態度について学ぶ。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の患者を受け持ち、優先順位を考え患者の個別性に合わせた看護援助を実施できる。 2. 夜間帯の実習を通して、看護の継続性を理解できる。 3. 医療チームの一員として、看護職や他職種と協働・連携ができる。 4. 看護学生として責任ある行動ができる。 5. 看護専門職としての役割を理解し、自己の課題を明らかにできる。 						
授業計画・授業内容						
<p>《病棟》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8：30～17：00（7.5時間） 3週間（原則として水曜日を帰校日とする） ・ 2名の患者を受け持ち看護展開する。また、受け持ち以外の処置の見学・一部実施をすることもある。 ・ 夜勤実習が2週目の金曜日 13：00～20：00 までである。 ・ 実習記録 <p>《帰校日》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9：00～16：20（6時間） ・ 2名の受け持ち患者の看護展開 ・ 技術練習 <p>※他詳細については、実習要項を参照してください。</p>						
評価方法						
実習評価表にて評価する。100点満点とし60点以上を合格、60点未満は不合格とする						
使用教科書						
特になし						
参考書						
特になし						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録を綴るファイル（A4サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具 						